

14.21

102

石川縣水産試驗場業務報告(大正七年)



始



石川縣水產試驗場業務報告

大正七年度

母船式發動機船漁業試驗	一
附 あり漁業委託試驗	一二
母船隊組織漁業試驗	二三
しいら旋網委託試驗	三二
鮪漁場調査	四六
講習講話及漁船設計	四九

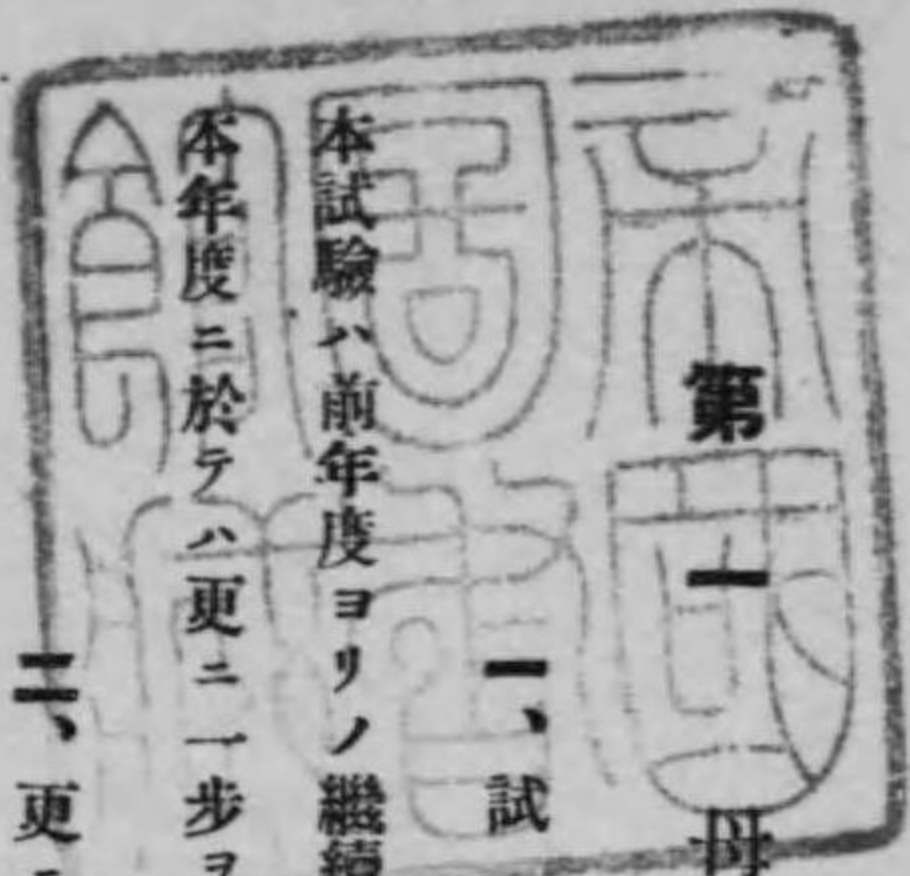
1421-102

大正七年試驗事業報告

漁撈部

主任技手 田中耕之助
助手 寛博

第二年月



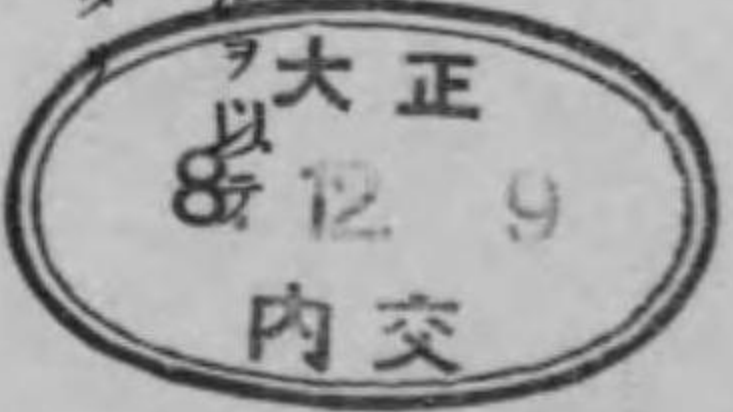
一、試驗ノ趣旨

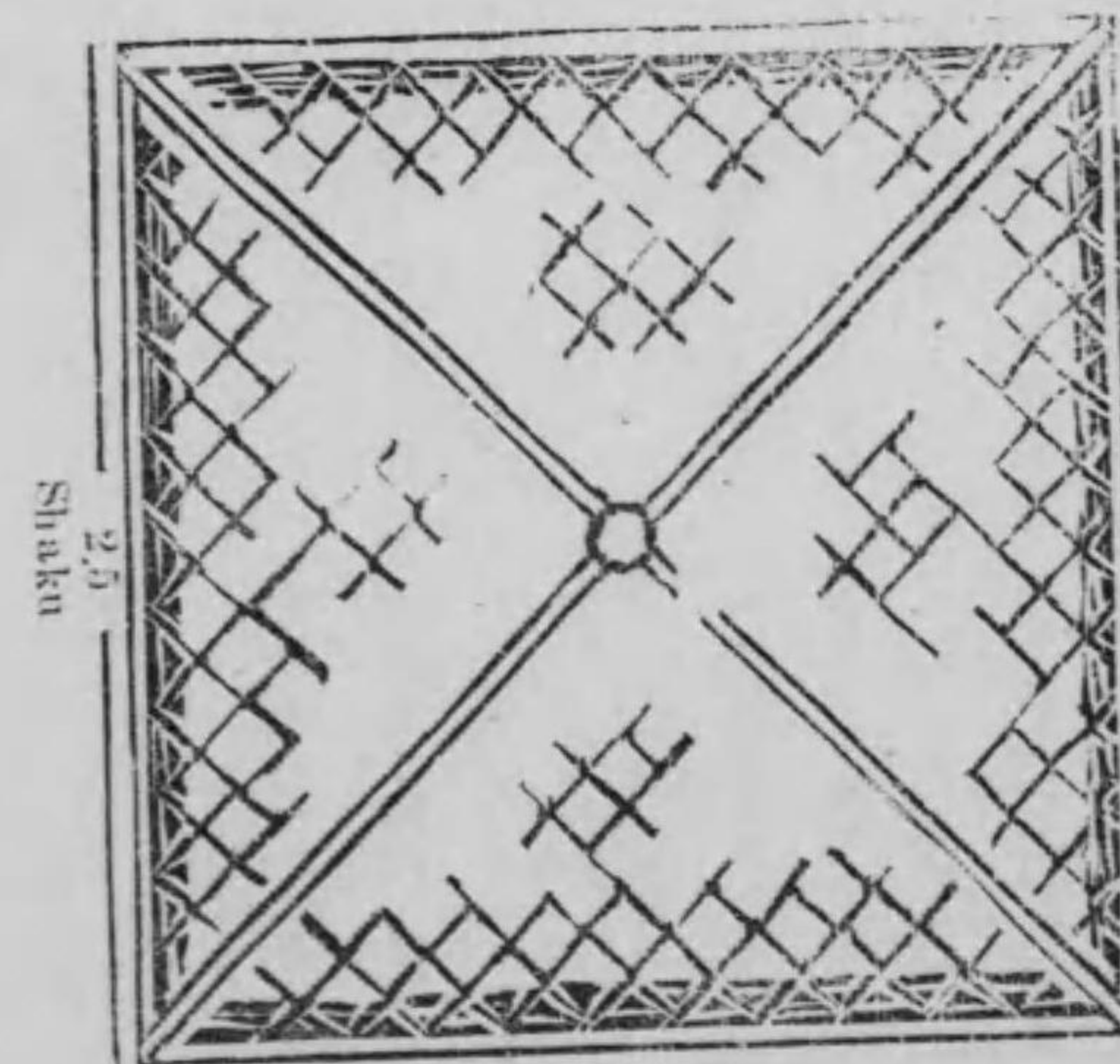
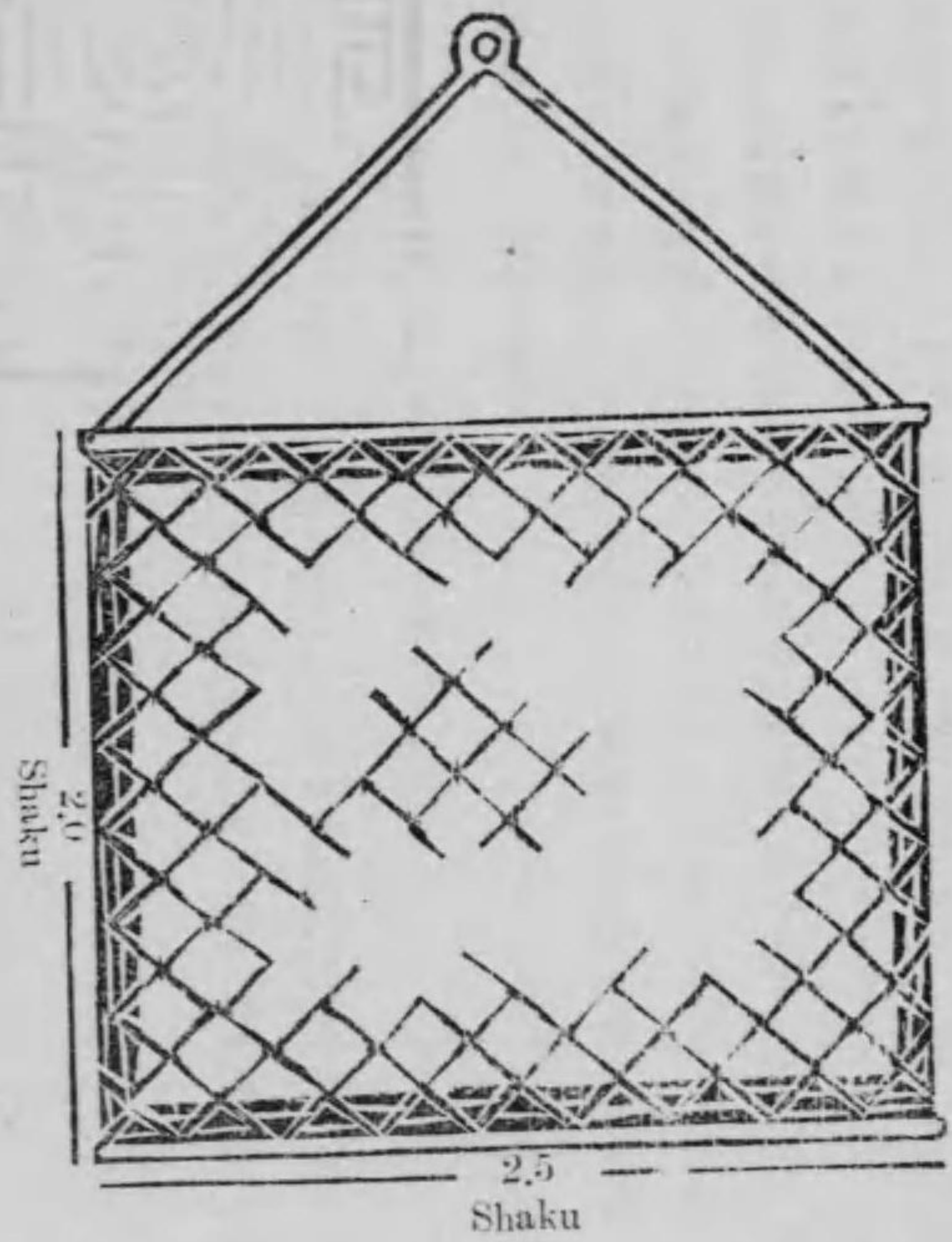
本試験ハ前年度ヨリノ繼續試験ニシテ前年度ニ於テハ縣下鮪漁業ニ對シテ母船式漁法ヲ以テスルノ効果アルコトヲ認メタルヲ以テ本年更ニ一歩ヲ進メ漁具漁法ヲ改善シ漁業設備ヲ完備シ以テ之レガ効率ヲ高ムルト同時ニ新漁場ノ探索ニ勉メタルヲ以テス

二、更ニ漁業設備ヲ施シタル點

一、漁獲物積卸用枰ヲ設備ス

理由 漁場ニ於テ母船カ漁艇ノ漁獲物及漁具其他ヲ積取ル際風浪高キ時ハ大イニ作業困難ヲ極メ往々海中ニ墜落セシムルコトアレハ是等ノ患ヲ除ク爲メ網枰ヲ作製シ之レヲ「メインマスト」ニ装置シタル「フィッシュテークル」ニ吊リテ使用シタリ
効果 以上ノ設備ハ漁業上非常ニ作業ヲ敏活確實ナラシメタルモノアリシモ該「フィッシュテークル」ハ「メインマスト」ヨリ取リタル爲枰ノ舷側ニ衝觸磨擦シ支障ヲ生ズルコト尠カラザリシヲ以テ之レニ「フィッシュユダビット」ヲ設備スルニ於テハ其ノ利便蓋シ尠カラザルベシ





(11)

二、漁艇ノ艇首ニ波避蓋ヲ設備ス

理由 本場使用ノ漁艇ハ其ノ構造上艇首部ノ浮力甚ダ乏シキ爲揚繩ノ際少シク波浪ノ高マルキハ忽チ艇首ヲ波浪中ニ突入シテ艇中ニ海水ヲ掬フコト往々ナリ之レヲ防ク爲艇首三尺ノ間ニ三角形波避蓋ヲ設ケタリ

効果 以上ノ設備ハ其ノ効果顯著ナリシト雖モ該波避蓋ハ其ノ形体餘リニ大ニ過キ取扱上非常ニ不便ナリシヲ感シタルヲ以テ尙研究ノ上一層改良ヲ施シ漁艇ノ操業能力ノ増加ニ努メントス

三、漁具漁法ニ就テ改良ヲ加ヘタル點

一、幹繩ニ綿糸ヲ使用ス

理由 前年度ニ於テハ幹繩ニ南京麻ヲ使用シタルモ鐵繩ハ主トシテ岩礁上ヲ撰ヒテ投繩スル方漁獲多キヲ以テ自然幹繩ノ損傷甚ダシク殊ニ麻糸ハ海水中ニ於テハ柔軟ナル爲岩礁ニ掛リ易クシテ作業困難ナルト共ニ經濟上ノ影響大ナルヲ以テ綿糸ノ水中ニ於テ固クシテ水切ヨク磨擦ニ堪フル力アルト同時ニ南京麻糸ニ比シテ價格低廉ナル點ヲ利用シ之レガ欠點ヲ償ハントセリ

價格比較

南京麻右二子百尋ノ目方二百十匁大ノモノ百尋 此金九拾四錢五厘 但百匁四拾五錢
綿糸百二十本合百尋重量百二十匁大ノモノ百尋 此金壹圓六拾八錢 但百匁壹圓四拾錢

効果 以上ノ改良ハ麻糸使用ニ比較シテ漁業上叙上ノ欠點ヲ防キ甚ダ利便ナリシモ戰時諸物價高騰ト共ニ綿糸ノ價格南京麻糸ニ比シ頗ル暴騰ヲ來シ到底以上ノ利點ヲ償ヒ得ザルニ至リタレバ已ムヲ得ズ半途又南京麻使用ヲ余儀ナクシタルモ戰後價格ノ低落スルニ立至ラバ綿糸ノ麻ニ比シ適當ナルヲ認ム

二、枝間ヲ二尋半ニ廣ム

理由 前年度ニ於テハ枝糸ノ長サ四尺枝間ヲ二尋トナシタルモ發動機船ヲ以テ裝餌投繩スルニ於テハ右ノ構造ニテハ四哩以下ノ速力ニアラザレバ到底投繩ナシ得ザルノミナラズ猶往々ニシテ幹繩混亂シ裝餌者ガ計ラザル負傷ヲナスコトアルノミナラズ四十馬力ノ補助機關ヲ有スル本母船ニ於テハ機關ノ回轉ヲ出來得ル限リ減ズルモ猶速力ノ早キニ逸シ或ハ時々停止ノ已ムヲ得ザルニ至ル爲メ機關燒玉ハ自然冷却シテ運轉不能ニ陥ルコト屢々ナリ殊ニ風潮ノ急ナルキノ如キハ繩ノ配列亂レ殆ンド之レガ手段ニ窮スルニ至ルコトアリ依ツテ枝間ヲ半尋延長シテ二尋半トナシ一鉢ニ四十本ノ枝糸ヲ付シテ之レガ危難ヲ防ガントス

効果 以上ノ改良ハ叙上ノ危難ヲ防ギ得ルト同時ニ投繩速度ヲ五哩内外ニ増加スルヲ得タリ

三、繩籠ノ徑ヲ二尺一寸トナス

理由 繩籠ノ構造ハ投餌投繩ノ操作上ニ大關係ヲ有スルモノナリ前年度使用ノモノハ其ノ徑一尺九寸ナリシ爲百尋ノ繩ヲ入ル、時

(12)

ハ餘リニ嵩張りテ多數ノ繩籠ヲ一括ニ結束困難ナルノミナラズ籠ノ釣針間隔狭キニ過ギ裝餌投繩ノ動作敏活ヲ欠クノ忌アルヲ以テ
本年度ニ於テハ其ノ大サヲ二尺一寸ニ廣ムルト同時ニ籠縁「アカモ」ノ量ヲ増加シ以テ其ノ目的ヲ達セントセリ
効果 右ノ改良ニヨリテ繩ノ籠ヨリ盛上ルコトヲ防ギ得タルノミナラズ籠縁ニ整理サレタル釣針ノ間隔非常ニ廣マリ投繩動作ヲ特
ニ迅速ナラシムルヲ得タリ

四、掛ケ延ヘノ投繩法ヲ改メ豫メ裝餌セラレタル繩ヲ投ス
理由 前年度ニ於テハ裝餌シツ、延下シタリシモ投繩時間ヲ短縮セシムルト共ニ繩成ヲ整フル爲豫メ繩籠ニ裝餌ヲナシ置キ延下ニ
際シテハ唯裝餌セラレアル繩ヲ投ズルニ止メタリ

効果 右ノ漁法ヲ以テスルニ於テハ投繩速度ハ非常ニ速カナルヲ得殆ンド全速回轉ヲ以テシテモ裕ニ操作ナシ得ルノミナラズ繩成
モ充分ニ整頓ナスコトヲ得タリ然レモ裝餌シタル繩籠ヲ狭キ甲板上ニ積置クニ於テハ非常ニ作業上窮屈ナルノミナラズ籠餌料ハ比
較的大切リナル爲裝餌サレタル釣ハ之レヲ籠縁ニ整頓シ置クコト不可能ニシテ自然枝糸ヲ混乱セシムルノ恐れアリ一度混乱セシム
ルニ於テハ速力ノ大ナル爲思ハザル危険ヲ惹起スルコトアレバ此ノ方法ニヨル時ハ繩籠ノ構造其他ニ就テ顧慮ヲ要スルモノアリテ
現在ノ儘ニテハ直チニ此ノ法ヲ以テスルノ困難ナルヲ感シタリ

四、餌料

餌料トシテハ本年度ニ於テモ主トシテ大羽鰻ヲ使用シタリ前年度ニ於テハ鰻ハ其儘雪詰メ或ハ鹽漬ケトナシテ出漁シタルモ五月以
降ニ於テハ保存ニ堪ヘズ四五日ヲ經過スレバ殆ンド使用ニ堪ヘザルニ至ルヲ以テ本年度ハ豫メ根據地ニ於テ處理シ頭ヲ落シ内臟ヲ
除去シテ鹽漬トナシタルニ魚肉ニ充分鹽分ヲ吸收セシムルコトヲ得數日間ヲ經ルモ肉質強固ニシテ保存良好ナルノミナラズ裝餌ノ
際操作甚ダ容易ナル爲投繩速度ヲ増大セシムル點ニ於テ大イニ利便ヲ感シタリ
本年度ニ於ケル餌料鰻ノ相場ヲ示セバ次ノ如シ

大羽鰻	体長七寸内外	一尾ニ付	六	厘	中羽鰻	体長四寸内外	一尾ニ付	貳	厘
小 鰻	体長三寸内外	全	六	毛					

五、漁期

本年度ニ於テハ漁期ヲ早メテ三月早々着手ノ豫定ナリシモ前年末以來未曾有ノ大雪ニシテ連日北西風強吹シ當時尙海上平穩ナラザ
リシ爲自然出漁ヲ妨ケラレ漸ク三月二十日初メテ出漁シ爾後五月二十七日ニ至ル七十日間ニ於テ施行シタリ

六、漁場

漁場ハ稍前年度ト其ノ趣ヲ異ニシ前年濃密ナリシ七ツ島西方沖合皆月黒嶋沖合等ノ中央部漁場ニ薄クシテ舳倉嶋西方沖合ノ北部漁
場及赤崎前濱沖合ノ南部漁場ニ比較的潤澤ナルヲ認メタリ

七、根據地

本年度ニ於テモ前年度ト同シク宇出津港ニ根據ヲ置キ漁獲物ハ主トシテ七尾及宇出津兩魚市場ニ陸揚シタリ

八、經過及成績

前年末以來水温一般ニ一度乃至二度低下シタル爲三月中ハ鰻ノ餌付面白カラズ漁場ヲ各所ニ撰ヒテ試ミタルモ漁獲多カラズ爲メニ
漁場ヲ轉ジテ稍深處百尋附近ニ投繩シタルニ鰻ハ尠カリシモ鰻及鮫ノ釣獲セラル、モノ多ク四月十四日ノ如キハ百枚繩ニ四百二十
五貫ノ鰻ヲ漁獲セリ此ノ附近ノ鰻ハ未ダ本縣漁業者ノ手下下サザル處ニシテ今回本船ノ探險ニヨリテ意外ニモ此ノ附近ニ鰻ノ好漁
場アルヲ發見シタリ(其ノ后此ノ鰻ヲ耳ニセシ宇出津漁業組合員等ハ此ノ附近ノ鰻ヲ目的ニ團體出漁ヲ企圖スルニ至レリ)四月ニ入りテヨリハ漸次水温上昇スルニ伴ヒ鰻ノ餌付良好トナリ漁場
ハ主トシテ舳倉嶋西南西沖合ニ出漁シタリ
前年良好ナリシ皆月黒嶋沖合漁場ハ更ニ漁獲ナク同地方ニ出漁シタル珠洲郡小木姫等ノ漁船ハ全々失敗ニ終リタルモ前濱赤崎沖合
ノ西部漁場ニ出漁シタル漣浦漁船ハ比較的良好ナル成績ヲ擧ケタリ

魚價ハ三月中ハ漁獲ナカリシ爲非常ナル高値ヲ呼ビ七尾相場ニテ百目ニ付四拾錢内外ヲ昇降シタルモ四月ニ入り出漁船ノ増加ト漁獲ノ好況トニ伴ヒ漸次下落シ貳拾錢内外トナレリ五月ニ入りテハ本年鮪ノ漁獲更ニ無カリシ爲比較的魚價高値ヲ續ケ月末迄拾六七錢ヲ昇降セリ六月以降ニ於テ沿岸一般ニ鯧漁ヲ終ルヲ以テ餌料ノ供給困難ニ陥リシノミナラズ鯖ノ大漁アリシ爲魚價頓ニ下落シ殆ンド望ナキニ至リテ試験ヲ終了シタリ

此ノ期間ニ於テ操業日數十五日ニシテ使用漁具ノ總延數二千五百六十九枚ヲ算シ總漁獲高金壹千六百八拾七圓拾貳錢ヲ得タリ
漁期間ニ於テ金澤測候所發地方暴風警報左ノ如シ

三 月

警報發布日時	警戒區域	警 文	警報解除日時	警 除 區域
十日十二時三十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十一日十二時三十分	北部南部各内陸
十五日十二時二十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十七日十三時十分	北部南部各沿岸
十九日十二時五十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十八日十二時十分	北部南部各沿岸
二十四日十三時二十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	二十日十三時四十五分	北部南部各内陸
二十五日二十時三十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	二十一日十五時十分	北部南部各沿岸
三十日十二時十分	北部南部各沿岸	風雨強カルヘシ	二十七日十三時三十分	縣下全部
			三十一日十四時三十分	北部南部各沿岸

四 月

警報發布日時	警戒區域	警 文	警報解除日時	警 除 區域
六日十三時二十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	八日十三時十分	縣下全部
十四日十三時十分	北部南部各沿岸	風雨強カルヘシ	十八日十二時五十分	北部南部各沿岸

五 月

警報發布日時	警戒區域	警 文	警報解除日時	警 除 區域
四日十二時二十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	五日十三時三十分	縣下全部
七日十一時五十分	北部南部各沿岸	風雨強カルヘシ	八日十二時十分	北部南部各沿岸
九日十八時十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十一日十二時十分	縣下全部
十二日十三時三十分	北部南部各沿岸	風雨強カルヘシ	十四日十二時十分	北部南部各沿岸
十七日七時三十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十八日十二時三十分	縣下全部
十九日十八時十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	二十日十二時十分	北部南部各内陸
二十六日十四時十分	北部南部各沿岸	風雨強カルヘシ	二十一日十七時十分	北部南部各沿岸
			二十八日十二時十分	北部南部各沿岸

試験ノ經過及成績左表ノ如シ

月 日	天候	漁場	漁具使用時	漁具使用數量	下層海水温度	餌料ノ種類	潮流方向	漁獲時深	種類	數量	價格
三月 二日	晴	イ	自午後二時 至午後六時	六七	七、〇	鹽 鯧	北	八五	ア ハチ メ	三八 三三 四	一八、六七三 一、八六七 三、三九 六二
全 晴	ロ		自午前六時	一三〇	七、二	鹽 鯧	北	九〇	カ サ ア レ イ	三〇〇 三三〇 五、〇〇〇 三三、〇〇〇	三、三九〇 一、九二五 八七、九七五

二六日	五月	四日	八日	全	九日	全	一六日	全	一七日
東二	雨	東二	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
			ス	ル	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ
至午後四時	自午前四時	至午後四時	自午前五時	自午前五時半	自午前五時半	自午後一時	自午前五時	自午後五時半	自午前三時
		一六九	一九二	九二	二〇四	八七			
		九、〇	九、二	九、〇	一〇、〇	九、五			
		鹽鯧	生鯖	鹽鯧	生鯧	鹽鯧			
緩	北東	緩	東	緩	北	北	緩	北	緩
		九〇	八〇	九〇	八五	八〇			
ハチ	タサ	ムカハ	ムカハ	ムカハ	ムカハ	ムカハ	ムカハ	ムカハ	ムカハ
メ	ラ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三、四九〇	一、六八五	二、七五〇	七、三〇〇	二、二〇七	四、九七五	三、三〇〇	三、二四〇	三、〇九〇	三、〇九〇

(九)

二四日	四月	九日	全	全	全	全	全	全	全
東一	晴	晴	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇
	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ			
至午後六時	自午前六時	自午後四時	自午前五時半	自午後六時半	自午前五時半	自午後一時	自午前五時	自午後四時	自午前六時
		一三〇	一六六	一〇〇	一三〇	一六二	六二	八、三	六二
		七、五	七、〇	七、二	八、三	八、五	八、三	八、三	八、三
		鹽鯧	生鯧	鹽鯧	鹽鯧	鹽鯧	鹽鯧	鹽鯧	鹽鯧
緩	北	緩	北	緩	北	緩	北	緩	東
		九五	一一〇	一一〇	一一〇	八五	九五	九五	九五
カス	タサ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ
ヘ	ラ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

(八)

全	二六日	雨	カ	自午前五時 至午後五時半	二〇〇	1	1	東	七四	ア ハ チ メ ラ	一四、二〇〇	六、四二八
全	二七日	曇	ヨ	自午前五時 至午前十時	七六	1	1	急	七〇	ア ハ チ メ ラ	五、〇〇〇	三、四、二〇〇
										カ フ ス ハ グ メ ラ	二、三六	五、八二三
												二、五七

(10)

收支計算

收入

一金壹千六百八拾七圓拾貳錢也

内 譯

- 金壹千八百八拾五圓〇貳錢壹厘
- 金貳百拾壹圓貳拾八錢八厘
- 金七拾參圓六拾參錢
- 金壹圓參拾錢六厘
- 金拾六圓七拾五錢四厘
- 金壹百參拾四圓五拾六錢四厘
- 金六圓四拾八錢七厘

收入總額

- ア
- サ
- ハ
- ス
- カ
- タ
- ム
- ラ
- メ
- メ
- ウ
- ベ
- ツ

支出

一金壹千五百參拾四圓貳拾參錢也

内 譯

- 金參拾壹圓八拾錢壹厘
- 金貳圓貳拾錢七厘
- 金六拾七錢貳厘
- 金貳拾參圓參拾九錢
- 金六百〇貳圓四拾五錢
- 金四百四拾參圓九拾貳錢八厘
- 金百四拾壹圓五拾七錢
- 金拾六圓九拾六錢
- 金四百九拾壹圓五拾錢
- 金七拾五圓
- 金四拾貳圓
- 金參拾八圓五拾錢
- 金百〇五圓

支出總額

- 油
- 輕油二十石九斗四升
- マシン油三石三斗
- 燒玉油八斗
- 船員給料
- 機關士給七十五日分一人
- 漁夫長給七十日分一人
- 水夫長給七十日分一人
- 水夫給七十日分三人

(11)

金貳百參拾壹圓

金貳百九拾七圓〇參錢

金參拾七圓五拾錢

金六拾九圓五拾七錢

金拾圓八拾參錢

金貳拾五圓參拾五錢

漁夫給七十日分六人

餌料 鯿

雪 漁具修繕材料

ウ エ ス

木 炭

損益

一金百五拾貳圓八拾九錢

利益

附

あら漁業囑託試驗

一、試驗ノ趣旨

鯿漁業ハ本縣漁業中最モ沖合ニ出漁スルモノニシテ其ノ漁期冬期荒天ノ充分ニ恢復セザル期間ニアルヲ以テ往々ニシテ風潮ノ急變ニ遭遇シ計ラザル不幸ニ陥ルコト尠カラズ殊ニ近時漁業ノ發展ニ伴ヒテ沖合ニ出漁シ且ツ出來得ル限リ漁期ヲ早メ荒天期中ト雖モ猶危險ヲ冒シテ出漁スルノ傾向アルヲ以テ漁船ハ本漁業ニ對シテハ最モ堅固ナルヲ撰フノ必要アルニ拘ハラズ現時漁業者ノ使用スル漁船ハ其ノ構造未タ充分ナラズ改良ヲ要スヘキモノ尠カラズ仍テ當場備付改良漁船加能丸(船長四十尺五寸船深二尺六寸船中十尺)ヲ民間ニ貸與シ鯿延繩漁業ニ從事セシメ以テ一ツハ改良漁船ノ効力ヲ現實ニ認識セシメ之レガ普及ヲ計ルト同時ニ一ツニハ當場實施中ノ發動機船ニヨル母船式漁法トノ効率比較ヲ目的トシ本試驗ヲ實施シタリ

二、試驗囑託ノ形式

本場ハ左ノ形式ニヨリ試驗ヲ囑託セリ

試驗囑託ノ件御願

今般當漁業團ニ於テ鯿漁業獎勵ノ目的ヲ以テ同漁業ニ改良漁船ノ普及ヲ謀リ度希望有之候ニ付貴場保管ニ係ル改良漁船加能丸ヲ借用シ貴場技術官ノ指導監督ノ下ニ鯿漁業試驗實施致度候ニ付テハ特別ノ御詮議ヲ以テ該試驗囑託相成候様御取計相成度規約書相添此段及御願候也

大正七年參月參日

石川縣珠洲郡小木村字眞脇

石川縣水產試驗場長事務取扱

進取漁業團長 堂前善太郎印

面 高 慶 之 助 殿

進取漁業團規約

- 第一條 本團ハ進取漁業團ト稱シ漁業ノ改良發達ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 第二條 無限責任姫信用販賣購買組合ノ組合員ハ總テ本團ノ團員トス
- 第三條 本團ノ事務所ハ無限責任姫信用販賣購買組合事務所内ニ置ク
- 第四條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團 長 一 名 評 議 員 十 二 名

團長ハ無限責任姫信用販賣購買組合長ヲ以テ之ニ充テ評議員ハ良民會ノ評議員ヲ以テ之ニ充ツ
第五條 團長ハ本團ヲ代表シ事務ヲ總理ス

評議員ハ事務執行ニ關スル重要事項ヲ決議シ且ツ事務ノ監督ヲ爲スモノトス

第六條 總會ハ毎年二月之ヲ開ク

別ニ必要アル場合ハ臨時會ヲ開クコトヲ得
總會ノ決議ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第七條 本團ニ書記ヲ置キ團長之ヲ任免ス
書記ハ團長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 本團ノ事業年度ハ歷年ニ依ル

第九條 本團ノ事業概目左ノ如シ

一、漁船ノ改良

改良漁船ヲ新造シ又ハ借入レ之ヲ團員ニ貸付試用セシメ又ハ自ラ之ヲ試用スルコト

二、漁具ノ改良

新規ノ漁具ヲ調製シ之ヲ團員ニ貸付試用セシメ又ハ自ラ使用スルコト

三、遠方ヘ団体出漁ヲ爲スコト

四、漁夫ノ能率増進ヲ計ルコト

第十條 本團ノ資金ハ無限責任姬信用販賣購買組合ノ出資ニ準シ出金スルモノトス

第十一條 本團ノ利益ハ總テ基本金トシテ之ヲ積立ツルモノトス

前項ノ基本金ハ總テ無限責任姬信用販賣購買組合ヘ預ケ入ル、モノトス

囑 託 書

石川縣球洲郡小木村字眞脇

進取漁業團長 堂前善太郎

本場ハ鮭漁業獎勵ノ目的ヲ以テ左記ノ條件ニ依リ別紙目錄ノ物件ヲ漁業團ニ使用セシメ鮭漁業試驗ヲ囑託ス

大正七年三月廿八日

石川縣水産試驗場長事務取扱 面 高慶之助

條 件

第一條 石川縣水産試驗場保管ノ別紙目錄ノ物件ヲ大正七年三月廿八日ヨリ大正七年六月廿六日ニ至ル間無償ニテ其ノ漁業團ニ使
用セシメ鮭漁業試驗ヲ囑託ス

第二條 該試驗ノ漁場ハ本縣沖合トス

第三條 試驗囑託期間中ハ荒天其他ノ爲メ己ムヲ得ザル場合ヲ除ク外濫リニ休漁スルコトヲ得ス

第四條 該試驗ノ漁獲物ハ被囑託者ノ所得トス

第五條 使用物件受渡ノ場所ハ石川縣鳳至郡宇出津港トス

第六條 被囑託者ニ於テ使用物件ヲ亡失又ハ破損シタルハ同一品質ノ物或ハ試驗場ニ於テ査定セシ金額ヲ納付スルモノトス
但シ天災其他ノ不可抗力ノ爲亡失シタルトキハ囑託者ノ賠償責任ヲ免除スルコトアルヘシ

第七條 被囑託者ハ試驗ニ付試驗場員ノ指導監督ヲ受クヘキモノトス

第八條 被囑託者ハ毎月試驗狀況ヲ本場規程ノ漁業日誌ニ記載シ毎月一日、十日、廿日ノ三回ニ纏メテ試驗場ヘ報告スルモノトス
但シ特別ノ事情ハ隨時報告スルモノトス

第九條 被囑託者ハ試驗完了ノ上試驗ノ經過成績等ニ關シ囑託者ノ指定セル事項ヲ報告スルモノトス

試驗囑託使用物件目錄

一加能丸船体及附屬品壹式

此建造費金四百九拾六圓七拾貳錢

内譯

- 日本型木造漁船 壹隻 金貳百八拾貳圓四拾參錢
- 帆柱(大中小) 參本 金拾七圓九拾錢
- 槽 五丁 金四拾六圓六拾五錢
- 舵 壹丁 金貳拾五圓
- 帆索具 壹式 金五拾六圓
- 帆 貳枚 金六拾五圓六拾四錢
- 桁 參個 金參圓拾錢

以上ノ囑託書ニ對シ同一様式ノ請書ヲ徵シタリ

三、漁期

本試驗モ母船式試驗ト同時ニ開始ノ豫定ナリシモ諸手續ニ尠カラヌ日子ヲ要シテ遲延シ四月三日漸ク根據地ヘ回航スルコトヲ得爾後五月二十九日ニ至ル五十七日間ニ於テ實施セリ

四、漁場

漁場ハ主トシテ羽咋郡前濱銀地沖合ナル西部漁場ニシテ海深七十尋乃至九十尋ノ間底質砂岩礁ノ場處ニ出漁セリ

五、根據地

主トシテ羽咋郡福港ヲ根據地トシ漁獲物ハ高濱或ハ瀧浦ニ陸揚シタリ

六、漁具

- 幹繩南京麻右二子燃百尋ニ付二百多大ノモノ一鉢ニ付八十尋
- 枝糸南京麻右二子燃百尋ニ付三十多大ノモノ一本ノ長五尺枝間二尋半
- 釣鈎鐵五尺ニ付七尺線製
- 浮標繩南京麻百尋ニ付三百三十多大ノモノ百二十尋幹繩七枚ニ一本
- 浮標桶杉材製厚五分外徑上部一尺二寸下部一尺一寸五分二重底ニシテ内底ノ深サ六寸五分
- 繩鉢竹製平籠外徑一尺八寸
- 染料ラインドモータント
- 沈石一個二百多大一鉢ニ一個浮標繩ノ下部ニハ七百多大ノ石一個付
- 價格 延繩一鉢 金壹圓五拾錢 浮標繩一鉢 金貳圓
- 浮標桶一個 金壹圓
- 漁具ハ右様ノモノ六十枚ヲ準備シ一日平均五十枚

餌料トシテハ終始大羽鰯ヲ其ノ儘鹽藏使用セリ

七、餌料

八、經過及成績

左表ノ如シ

月日	天候	漁場符號	漁具使用時	漁具使用數量	潮流方向	餌料種類	漁獲深時	種類	數量	價格
三月三日	晴	A			東	鰯	九五	アサチ	四、〇〇〇	五、一三〇
三月三日	晴	A			東	鰯	九五	サチ	四、〇〇〇	九、六〇〇
三月三日	晴	A			東	鰯	九五	メラ	一、五〇〇	四、三〇〇
三月三日	晴	A			東	鰯	九五	ラ	五、〇〇〇	一、九二〇

母船式漁業ト改良漁船ニヨル漁業トノ能率比較

二九日	二六日	二四日	一九日	一八日	一六日	一三日	一〇日	五月
西南雨	東雨	東晴	西南晴	曇	南晴	西南雨	西南晴	
二	一	一	二	一	一	一	二	
P	O	N	M	L	K	J	I	
緩東	緩東	緩東	緩東	一	一	一	一	
塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	
鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	
八五	八五	九五	八五	八五	八二	八五	九〇	
ハアチメ	ハアチメ	ハアチメ	ハアチメ	ハアチメ	ハアチメ	サハアチメ	サハアチメ	
二五〇	一七〇	二七〇	九〇	三〇	四〇	三〇	三〇	
一、〇〇〇	五、八五〇	一、〇〇〇	三、八〇〇	四、〇〇〇	五、四〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇	

三〇日	二五日	二三日	一七日	一四日	一二日	五日
西晴	西北晴	東雨	西南晴	西南曇	東晴	東晴
一	二	二	二	二	二	二
H	G	F	E	D	C	B
緩東	緩東	緩東	急東	急東	緩東	緩東
塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩
鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	鯿	鯿
一〇〇	八五	一一〇	一〇〇	一〇五	一〇五	九〇
ハアチメ	サ	タサハアチ	スタサアケトウラメ	タハサアチ	ハサアチ	其サハアチ
五〇〇	二〇〇	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	一〇〇
二、〇〇〇	一、二〇〇	一、七〇〇	三、九〇〇	三、八〇〇	一、五〇〇	一、七五〇

一、出漁能力

母船式漁業ハ三月二十日ヨリ五月二十七日ニ至ル六十九日間ニ於テ左ノ割合ニ操業セリ

出漁日數	一五	荒天ノ爲出漁不可能ナリシ日數	三〇
事故ノ爲出漁不可能ナリシ日數	一七	餌料ノ供給不可能ナリシ日數	七

計 六九

改良船加能九ハ四月三日ヨリ五月二十九日ニ至ル五十七日間ニ於テ左ノ割合ニ操業セリ

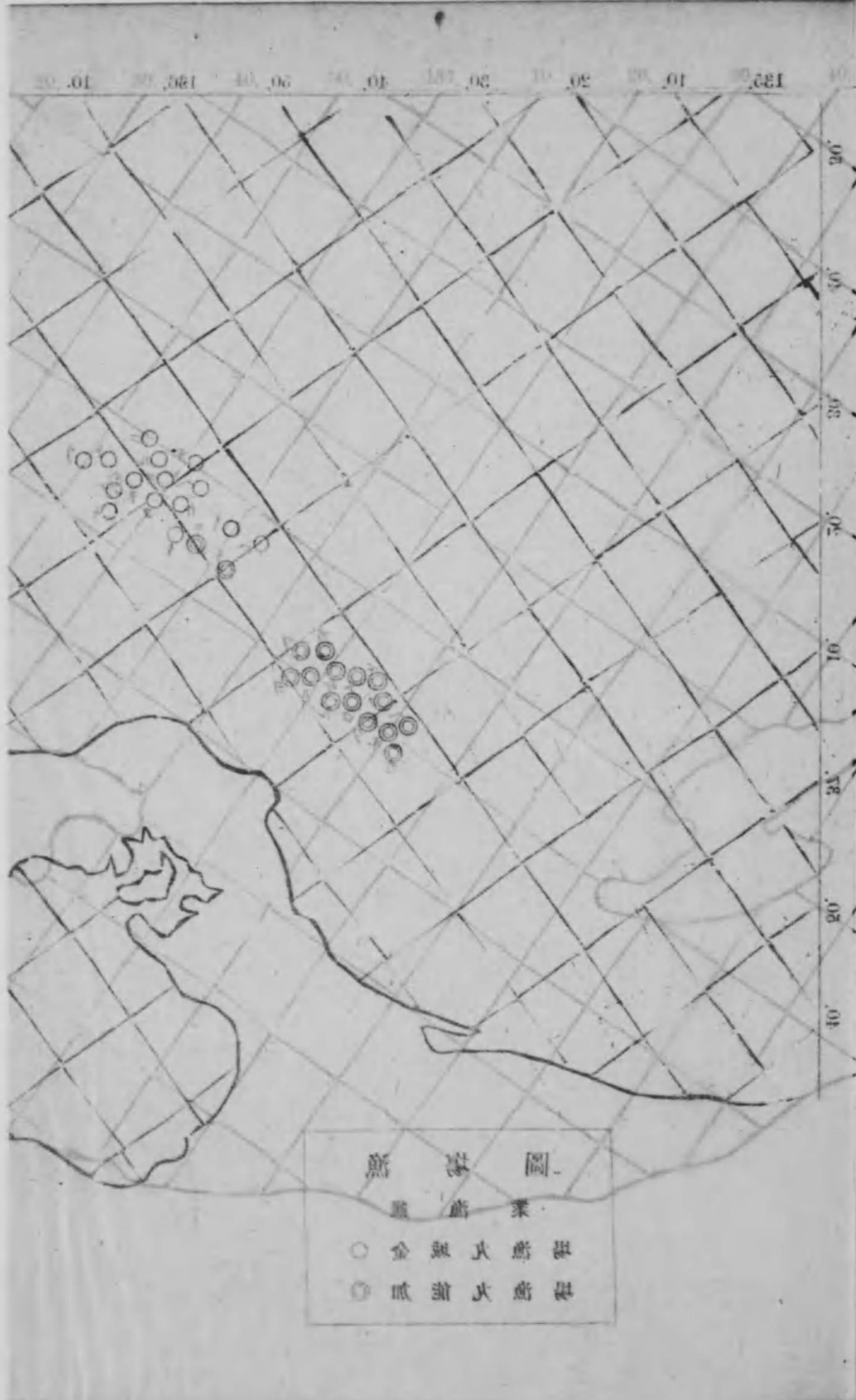
出漁日數	一六	荒天ノ爲出漁不可能ナリシ日數	二八
餌料ノ供給不可能ナリシ日數	一三	事故ノ爲出漁不可能ナリシ日數	〇

計 五七

以上ノ比較ヨリ見ル時ハ前者ハ漁期六十九日間ニ於テ十五日ノ出漁ヲナシ後者ハ漁期五十七日間ニ於テ十六日間ノ出漁ヲナシタルヲ以テ其ノ率後者ノ前者ニ優ルガ如クナルモ兩船ガ共ニ從業セシ期間四月三日ヨリ五月二十七日ニ至ル五十五日間ニ於テ比較スレバ即チ

母船式ニヨルモノ	出漁日數	一三
改良漁船ニヨルモノ	出漁日數	一五

トナリ其ノ差僅カニ二日トナルノミナラズ前者ニ於テハ時々場務ノ爲事故突發シテ出漁不可能ニ陥リシコトアリシヲ以テ右ノ比ヲ以テ直チニ之レヲ論スルコトヲ得ス尙今出漁當時ノ天候ノ状態ヨリ考フルモ改良漁船ニ於テ從漁シ得ルノ風力波高ハ母船式漁艇モ亦ヨク之レヲ凌キ得ルヲ認メタリ唯漁艇ハ其ノ艇体小ニシテ荒天時ニ於テハ對抗力ノ乏シキガ爲操繩時間ヲ多ク要スルノ點ニ於テ欠クルト雖モ從漁シ得ル天候ノ程度ハ決シテ改良漁船ニ劣ラザルヲ確メ得タリ



漁業圖

○ 金 銀 火 船 艇
 ● 瓜 船 火 船 艇

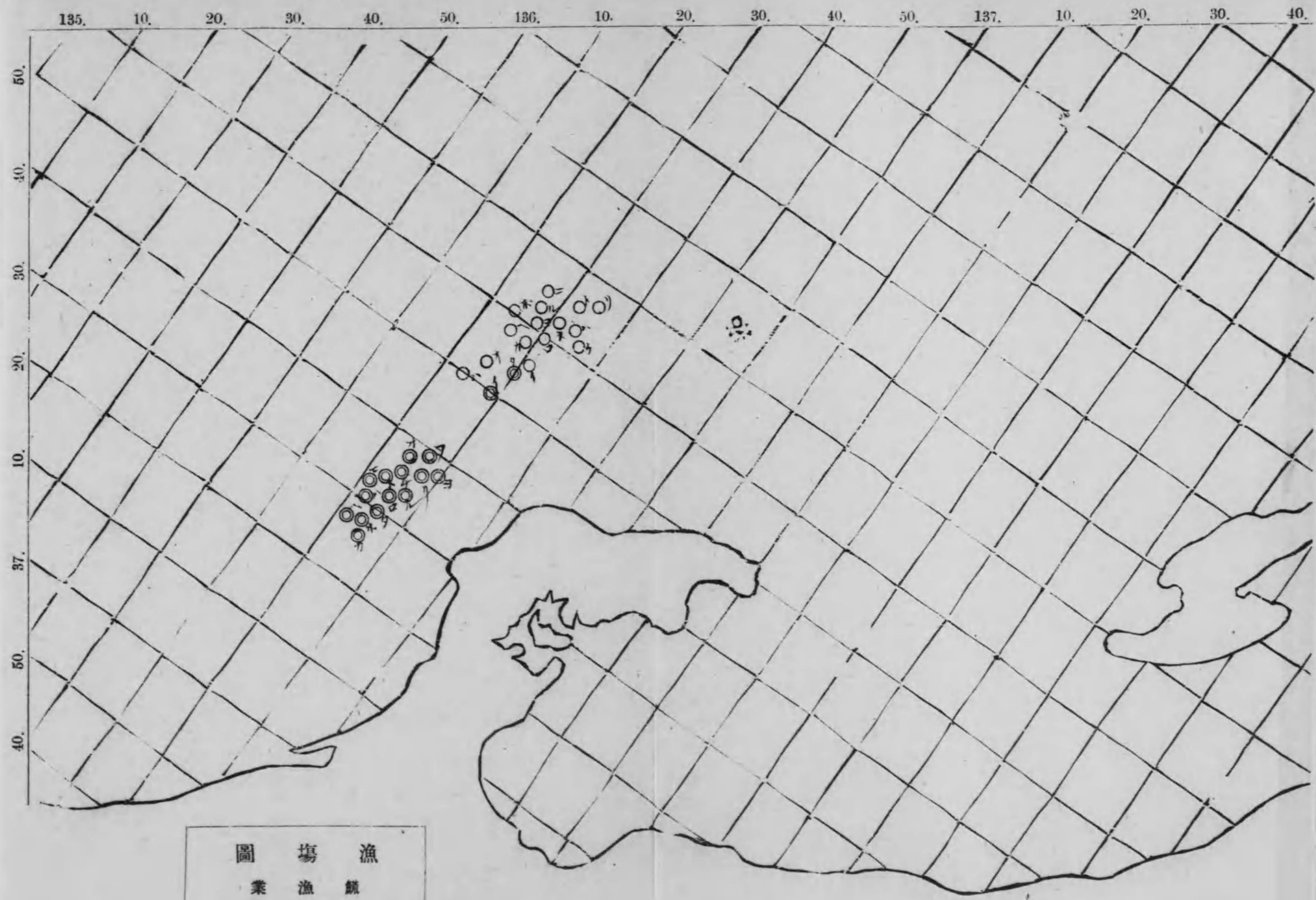
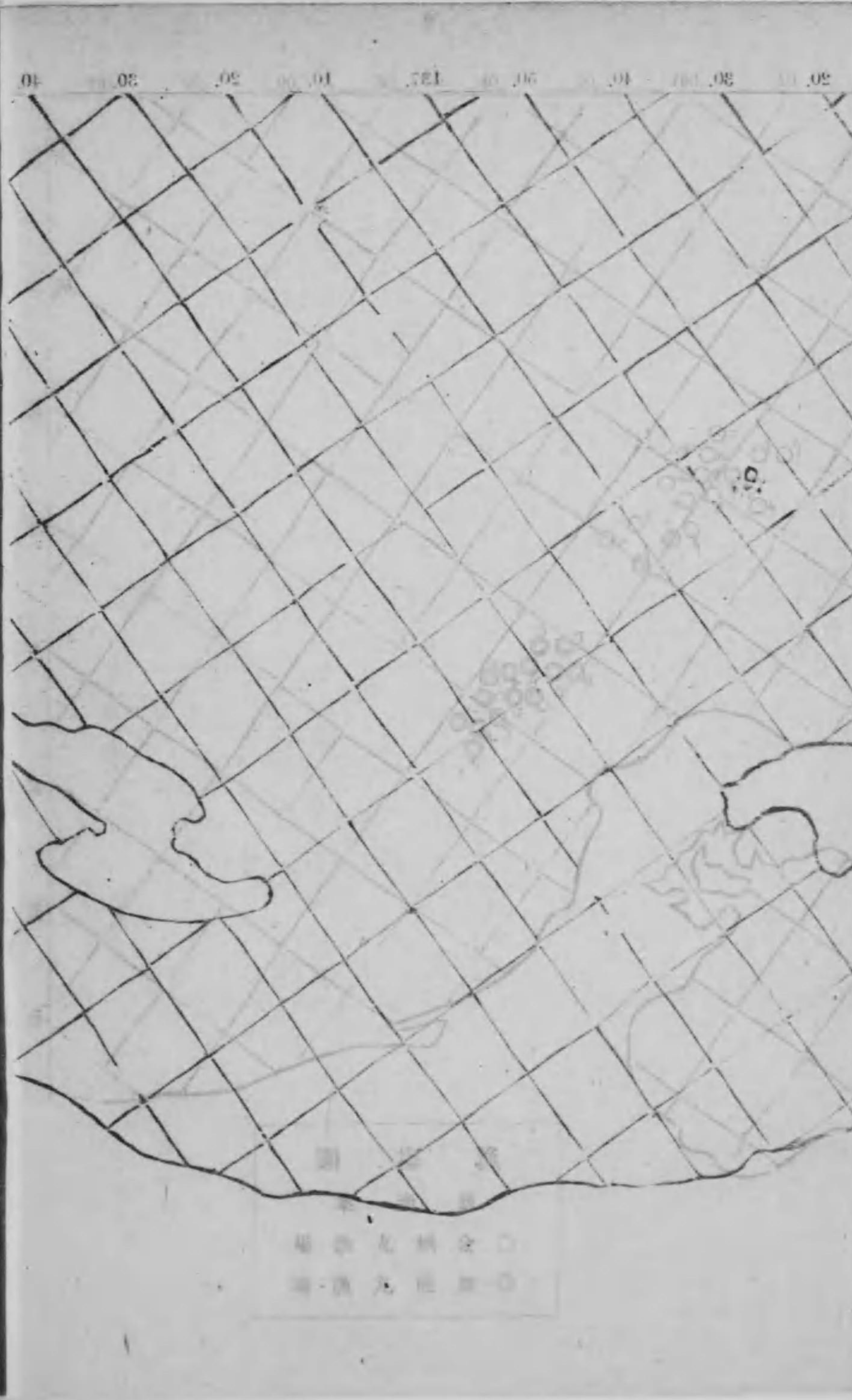


圖 場 漁
 業 漁 船
 場 漁 丸 城 金 ○
 場 漁 丸 能 加 ◎

トナリ其ノ差僅カニ二日トナルノミナラズ前者ニ於テハ時々場務ノ爲事故突發シテ出漁不可能ニ陥リシコトアリシヲ以テ右ノ比ヲ以テ直チニ之レヲ論スルコトヲ得ス尙今出漁當時ノ天候ノ状態ヨリ考フルモ改良漁船ニ於テ從漁シ得ルノ風力波高ハ母船式漁艇モ亦ヨク之レヲ凌キ得ルヲ認メタリ唯漁艇ハ其ノ艇体小ニシテ荒天時ニ於テハ對抗力ノ乏シキガ爲操繩時間ヲ多ク要スルノ點ニ於テ欠タルト雖モ從漁シ得ル天候ノ程度ハ決シテ改良漁船ニ劣ラザルヲ確メ得タリ



餌料ノ供給ハ一ツニ其ノ根據地ノ關係ニ依ルモノニシテ内浦ヲ根據トセル前者ニ於テ比較的餌料ヲ得安ク外浦ヲ根據トセル後者ノ之レニ困難ヲ感ゼシハ鯨漁期中ニ於ケル荒天時ノ風向ハ殆ンド南西及西方ニ定マリ常ニ同一方向ヨリ強吹スルヲ以テ地勢上内浦方面ハ荒天時ト雖モ外浦方面ニ比較シテ平穩ナル爲鯨其他ノ從漁漁船ノ出漁可能率大ナルト内浦方面ハ各地ニ定置漁具施設セラレ居ル爲自然餌料豊富ニシテ之レガ供給ニ苦シムコト少ナキ謂所ナリ

二、操業能力

母船式漁業ニ於ケルモノ
 一日中ノ最大操業時間 一二時間
 一日中ノ最大操繩數 八〇枚 但シ漁艇一隻

改良漁船ニ於ケルモノ
 一日中ノ最大操業時間 六時間
 一日中ノ最大操繩數 六〇枚

以上ノ比較ヨリスレハ操業時間ニ於テハ前者ハ後者ノ二倍トナリ漁具使用可能數ニ於テハ前者(漁艇一隻)ノ四ニ對シ後者三ノ割合トナル之レ惟フニ前者ニ於テハ出漁中俄ニ天候險惡ノ兆ヲ示スモ愈々強潮怒濤ノ逆卷來ツテ操業不可能ニ陥ル迄從漁スルコトヲ得愈能ハザルニ至ツテ歸港ノ途ニ就クモ漁場近キ爲敢テ危險ヲ感ズルコト無ケレドモ加能丸ニ於テハ黎明ヨリシテ後クモ午前十時頃迄ニハ天候ノ如何ニ拘ハラズ終漁歸帆スルニアラザレハ一朝風潮ノ急變スルニ於テハ思ハヌ危險ニ陥入ルノ恐ナキヲ保セザルヲ以テ自然操業時間ヲ短縮セラル、ノミナラズ從業中ト雖モ常ニ危懼ノ念ニ驅ラレ充分ナル能力ヲ發揮シ得ラザルノ欠點アリ殊ニ鯨漁期中ニ於ケル天候ハ俄然急變スルノ傾向アルヲ以テ一層自重ヲ要スルモノアリテ自然操業時間ヲ減ゼラル、ニ至ル漁具ノ使用率ハ母船式ニ於テハ漁艇一隻三人乗組ニテ一時間六枚半ナルニ對シ加能丸ニ於テハ八人乗組ニテ一時間十枚ヲ使用スルコトヲ得即チ改良漁船ニ於テハ一時間ニ於ケル操業力ハ大ナルモ前述ノ如ク一日中ニ於ケル操業時間短キ爲結局漁艇一隻ノ操業率ガ改良漁船ヨリモ大ナル結果トナル

結論

本年度試驗ノ目的ハ既ニ述ヘタルガ如ク母船式漁法ノ効率ト漁具漁法ノ改良ニ伴フ效果ニ就テナリ即チ前年度試驗ノ結果ニ於テ稍良好ナル成績ヲ認メタリシガ本年度ニ於テ一層之レガ効果ヲ認ムルコトヲ得タリ而シテ本年度實施シタル普通帆走漁船トノ比較試驗ニ於テ益々其ノ有利ナルコトヲ確實ニ認識セシメタリ

今此ノ試驗ノ結果ヲ普延シテ論スルニ以上ノ試驗ニ於テハ經費豫算ノ關係上母船十九噸四十馬力ニ對シテ三隻ノ漁艇(長十四尺巾四尺五寸深一尺八寸)ヲ以テセルモ之レヲ實際營利のニ經營スルニ於テハ十九噸三十馬力ノ母船ヲ以テ六隻ノ漁艇ヲ操從スルニ難カラザルヲ信ズ而ラバ今實際試驗ノ成績ヲ基礎トシ之レニ比例シテ凡テヲ計算スルキハ前記試驗ニ於テハ三隻ノ漁艇一日ノ漁獲高ハ約百拾貳圓ト見ルヲ得ヘキヲ以テ六艇ヲ使用スレハ之レニ倍シ一日貳百貳拾四圓ノ漁獲ヲ得ヘシ而シテ今此漁期間ニ於ケル出漁可能日數ヲ前記兩試驗日誌ヨリ見ルキハ一方ニ於テ出漁可能ナリシモ一方ニ於テハ事故ノ爲出漁不可能ノ日數尙幾何カラ存スルヲ以テ兩試驗ニ於テ出漁シ得タル日數ヲ合算スル時ハ二十七日ノ出漁可能ノ日子ヲ得ヘシサレハ以上ノ漁期間ニ於テハ少クモ此ノ二十七日ハ從漁シ得ル日數ト見ルヲ得ヘキナリ仍テ前記漁艇ガ此ノ日數出漁シタルモノトスレバ漁期間ニ於ケル總漁獲金高六千〇四拾八圓ヲ得ル計算トナル今之レガ支出ニ就テ算スレハ次ノ如シ

支 出
金貳千九百五拾圓參拾八錢壹厘也
總 支 出 額

內 譯
金壹千九百九拾貳圓八拾五錢壹厘
諸 油 代
金八百參拾八圓
船 員 給 料

金七拾五圓
機關士給料
金四拾貳圓
漁夫長給
金參拾八圓五拾錢
水夫長給
金百〇五圓
水夫給
金五百七拾七圓五拾錢
餌料代給
金五百參拾四圓六拾五錢四厘
雪代
金六拾七圓五拾錢
漁具修繕代
金貳百五拾貳圓貳拾五錢貳厘
ウエス代
金拾九圓四拾九錢四厘
木炭
金四拾五圓六拾參錢

損 益
金參千〇九拾七圓六拾壹錢九厘也
利 益 額

以上ノ計算ニヨレバ利益額金參千〇九拾七圓六拾壹錢九厘ヲ得ルモ尙之レヨリ金利(六百圓)船体消却費(貳百圓)機關消却費(五百圓)及船員歩合金(九百〇七圓貳拾錢)等ヲ見積リ減ズルモ猶千百餘圓ノ純利ヲ舉クルコトヲ得ルヘシ
以上ハ單ニ春期漁業ニ對スル試驗ナルモ猶該漁業ノ有利時機ハ春期ノミニ止マラズ必ズヤ秋期ニ於ケル該魚ノ産卵後索餌時代九、十兩月ノ頃ニ於テモ亦有望ナルモノアリト信スルヲ以テ次年度ニ於テハ秋期漁業ノ効率ヲ試驗シ以テ之レガ試驗ヲ終了セントス

第二 母船隊組織 鱒漁業試驗 第一年度

一、試験ノ趣旨

前年度施行シタル母船式鯛漁業ノ試験成績ヲ見ルニ七ツ島ヲ中心トスル一帯ノ海區ハ鯛ノ棲息スルモノ他ニ比シテ潤澤ナルモ其ノ最モ濃密ナルハ五十尋深以内ニシテ七ツ島ト相去ルコト六、七哩ノ範圍ヲ出ズアレバ此ノ附近ニ於ケル鯛漁業ハ母船式漁法ヲ以テスルヨリモ寧ロ七ツ島ヲ根據トスル普通漁船ノ團隊ヲ組織シ之レニ漁獲物ノ運搬、必要物資ノ供給其他操業上ノ補助機關トシテ發動機船ヲ附隨セシムル漁業組織ヲ以テスルニ於テハ其ノ効率ノ一層大ナルモノアルヲ信シ之レガ試験ニ從事シタリ

二、漁業ノ組織

母船 母船トシテ本場所屬試驗船金城丸ヲ使用シ之レニ要スル一切ノ設備並ニ費用ハ試驗場ニ於テ負擔シ漁獲物ハ之レヲ宇出津漁業組合魚揚場ニ陸揚シタリ

漁船 母船ニ附隨セシ漁船ハ宇出津漁業組合員中ヨリ撰拔シ左記十名ノ持船ヲ以テ之レニ充タリ撰擇ノ條件左ノ如シ

一、漁船ハ船齡五年以下ナルコト

二、漁船ハ肩巾七尺以上ナルコト

三、帆走及操櫓ノ設備完全ナルコト

四、其他船体ノ構造及附屬設備ニ就テハ試驗場ニ於テ適當ト認ムルモノタルコト
以上ノ條件ニ適合セル左記十名ノ持船ヲ採用セリ

宇出津漁業組合員	寺 分 長 松	宇出津漁業組合員	船 本 幸 吉
全	小 浦 作 太 郎	全	紙 子 久 松
全	矢 波 喜 太 郎	全	宮 市 久 松
全	川 崎 五 三 郎	全	川 口 力 太 郎

全

寺 下 芳 太 郎

全

川 端 久 太 郎

以上ハ何レモ能登天當形漁船ニシテ無甲板五丁櫓付トシ乗組漁夫ハ各船共船頭以下四名ナリ
漁具、餌料及船員炊事ニ要スル器具材料等漁撈ニ要スル一切ノ費用ハ各漁船各自ノ負擔トス
但シ附隨漁船ノ漁獲物ハ全部漁船ノ所得トシ十隻分ヲ一括シテ十等分シ各漁船ニ分與ス
漁具 漁具ハ延繩ヲ用ヒ各漁船共五拾鉢ヲ準備セリ其ノ構造左ノ如シ

幹繩南京麻右二子燃百尋ノ目方七十寸大ノモノ一鉢ノ長百尋

枝糸金引麻右二子燃百尋ノ目方十五寸大ノモノ一本ノ長サ一尋半ニシテ枝間五尋

釣針九型大サ七分

浮標繩南京麻右二子燃百尋ニ付二百寸大ノモノ一本ニ付長八十尋幹繩六繩ニ一本

浮標桶杉材製厚五分、外徑上部一尺、下部九寸六分、高七寸五分、二重底内底ノ深サ六寸

沈石平均百五十寸大ノ石一枚ニ一個宛 浮標繩ニハ四百寸大ノ石一個ヲ付ス

繩鉢竹籠外徑一尺六寸

染料 ライント、モーダント

價格 延繩一鉢 金壹圓參拾錢 浮標繩一鉢 金壹圓貳拾錢 浮標桶一個 金八拾錢

餌料 餌料トシテハ相當保存ニ堪ヘ得ルノ必要アルノミナラス一時ニ多量ヲ要スルニヨリ供給自由ナルモノナラサルヘカラス以上ノ點ヨリ好餌料ヲ撰擇スルハ此ノ期間ニ於テハ油柔魚ヲ充ツルヨリ外適當ナルモノヲ見ザルヲ以テ己ムヲ得ス之レヲ用ヒタルモ油柔魚ニテハ鯛ノ餌付面白カラザルヲ以テ餌料ニ關シテハ將來大イニ研究ノ余地アルモノトス

油柔魚 一貫目 金貳圓五拾錢 但一貫目ノ油柔魚ヲ以テ約百鉢ノ鯛延繩ニ裝餌シ得ルモノトス

根據地 根據地ハ七ツ島、大島ト定メタリ七ツ島ハ全島大島、荒美子島、ウシマ、ミクリヤシマ等ノ數島ヨリ成リ大島最モ大ナリ
 同島ハ輪島ノ北方十二哩ノ海上ニアリ周回約一哩余ナリ該根據地ハ全島西南ニ面セル入江ナレドモ全地ハ北東寄ノ風位ニハ稍凌ギ
 得ルモ南西寄ノ風ハ全々眞受ニシテ到底碇泊繫船ヲ許サザルニヨリ漁船ハ歸濱毎ニ之レヲ引揚ゲザル可カラズ
 餌料水ハ此ノ入江海濱ニ湧出スルヲ以テ平時ハ生活ニハ充分ナリト雖モ一朝暴風ノ際ハ海水驟入シテ使用ニ堪ヘザルニ至ルヲ以テ
 豫メ水槽ヲ据エ危難ニ供ヘタリ又暴風時ニ於テ船中ニ臥寢シ得ザル場合ハ此ノ入江ニ避難設備トシテ既ニ建設シアル「バラック」ニ
 一時避難スルモ其他ハ各自ノ船中ニ起臥シタリ
 又根據地ニハ當場所屬加能丸ヲ据置キ之レニ氷雪ヲ貯ヘテ冷蔵庫トナシ荒天其他ノ事項ノ爲母船ノ航海途絶シタル場合ニ於テ一時
 漁獲物ヲ冷蔵保管ヲナス設備ニ供シタリ

三、期 間

自八月二十六日至十月三日三十九日間

四、漁 場

七ツ島及舢倉島ヲ中心トスル一帯ノ海區

五、經過並ニ成績

八月二十六日凡テノ準備ヲ完了シ母船金城丸ハ附隨漁船十艘ヲ曳航シテ宇出津ヲ出帆シ根據地七ツ島ニ向フ
 宇出津七ツ島間四十五海里ニシテ之レニ十時間ヲ要シ翌二十七日根據地ニ着シ直チニ出漁諸準備ニ着手ス
 爾後試驗船ハ漁獲物ノ運搬、餌料食料ノ補給其他必要物資ノ供給ニ從ヒ傍ラ二艘ノ漁艇ヲ操縦シテ自ラ母船式漁業ニ從ヒ以テ漁場
 ヲ探索シテ直接漁船ノ指導ニ任シタリ
 出漁當初ハ此ノ附近一帯ノ海底狀態不明ナリシ爲岩礁ニ漁具ヲ損セラレ一時爲メニ漁業中止ニ陥ラントシ己ムヲ得ズ九月二日ニ至

リ根據地ヲ北方十四哩ナル舢倉島ニ移シ此ノ附近ノ漁場ニ出漁試驗シタルモ此ノ附近ハ漁場ニ比較的遠キノミナラズ網又薄クシテ
 到底見込ナク再ヒ根據地ヲ七ツ島ニ移シ九月五日曳航歸復シタリ
 以後各所ニ漁場ヲ撰ミテ試ミ漸次經驗ヲ積ミ漁場ノ模様自然鮮明スルヲ得タリ即チ七ツ島ヲ基點トシ其ノ北方ヨリ北東方面ハ海底
 細砂ニシテ其ノ間岩礁點綴シ網ノ棲息スルモノ潤澤ナレドモ海底ノ狀態ヲ充分明カニスルニアラザレバ投網困難ナリ而シテ北東ヨ
 リ南東ニ至ル海區ハ海底殆ンド岩礁ニ埋メラレ到底投網不可能ナリ又東南ヨリ西方ニ至ル海區ハ海底砂又ハ泥質ニシテ投網ニハ差
 支ナカルベキモ漁獲少ク殆ンド漁場トシテノ價值ヲ認メス唯北方ヨリ西方ニ至ル區間ハ海底細砂ニシテ具殼ヲ混シ所々ニ岩礁點在
 スルモ多カラズ網ノ群集スルモノ濃密ニシテ最モ適當ナル漁場ナルコトヲ發見セリ爾後此ノ漁場ニ出漁スルニ至リシヨリ漸次好況
 ヲ呈スルニ至レリ而シテ母船ハ初漁以來五航海ヲナシタルニ經費豫算ノ關係上半途中止ノ已ムヲ得ザルニ立至リタレバ漁船團ニ於
 テハ其ノ成績良好ナリシニ鑑ミ更ニ十噸十馬力ナル小木丸(縣下珠洲郡小木村字小木漁業組合所有)ヲ借入レ一航海ニ就キ貳拾七圓
 (母船ニ要スル一切ノ消費ハ船主持トス)ノ契約ノ本ニ借入レ獨立事業ヲ繼續經營スルニ至リ豫定期間十月三日迄實施シテ終了セリ
 運搬狀況左表ノ如シ

第一次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價 格	合 計
八月二十七日	一二四、八〇〇	一二四、八三〇	二六二、〇八〇	四〇〇、一一一
八月二十八日	一〇〇、〇三〇		一三八、〇四一	

第二次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價 格	合 計
八月三十日	六五、二三〇	六五、二三〇	六八、四九一	六八、四九一

第三次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月二日	七六,六〇〇					
九月三日	一〇七,九〇〇	一八四,五〇〇				
			一三五,五八二			
			一四九,四一〇			
						二八四,九九二

第四次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月五日	二二九,八〇〇					
		二二九,八〇〇				
			三〇八,三一四			
						三〇八,三一四

第五次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月七日	一一一,三〇〇					
		一一一,三〇〇				
			一七六,四五六			
						一七六,四五六

第六次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月十九日	一〇〇,九〇〇					
		一〇〇,九〇〇				
			三三九,七二四			
						三三九,七二四

第七次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月二十二日	一四〇,六〇〇					
九月二十三日	九五,〇〇〇					
		二三五,六〇〇				
			二三八,四五二			
			一六三,三一〇			
						四〇一,七六二

第八次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月二十七日	九〇,一〇〇					
九月二十八日	五三,五〇〇					
		一四三,六〇〇				
			一六二,一八〇			
			一一一,三七〇			
						二七三,五五〇

第九次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
九月三十日	五三,〇〇〇					
		五三,〇〇〇				
			九七,一一五			
						九七,一一五

第十次航海

出漁月日	漁獲數量	運搬數量	價	格	合	計
十月三日	一四九,七〇〇					
		一四九,七〇〇				
			二七一,五二九			
						二七一,五二九

累計 漁獲數量 千四百九十八貫四百六十匁

漁獲金額 貳千六百貳拾貳圓〇四錢四厘

以上ノ運搬ハ其ノ半第五次航海迄及最後ノ第十次航海ハ當場金城丸ヲ以テシタルモ其ノ後ノ四航海ハ備船小木丸ヲ以テ運搬シタリ然レドモ今此ノ運搬ヲ其ノ當初ヨリ備船小木丸ヲ以テ實施シタルモノト假定シ之レガ收支ヲ計算センニ左ノ如シ

收入

一金貳千六百貳拾貳圓四錢四厘也

銅千四百九拾八貫四百六十匁代

總收入額

支出
 一金七百貳拾六圓六拾八錢也
 內 譯
 金貳百七拾圓
 金貳百九拾七圓拾錢
 金百五拾九圓五拾八錢
 損益
 一金千八百九拾五圓參拾六錢四厘也
 (但シ漁具修繕費一艘平均貳拾圓ヲ要シタリ)

總支出額
 漁獲物運搬費
 餌料、雪及米代
 魚揚場手數料及漁獲高ニ對スル二分預金

利益額
 一金千八百九拾五圓參拾六錢四厘也

六、結 論

本試驗ハ本年度初メテ實施シタルモノニシテ漁業組織方法其他ニ就テ改善ノ余地尠カラザルモ其ノ成績比較的良好ナルモノアリタルハ尠ニ善フ所ナリ唯本年ハ其ノ漁場ノ狀態不明ナリシ爲非常ニ漁具ヲ毀損セラレ之レガ修繕ニ多大ノ經費ヲ要セシ爲實收入ノ點ニ於テハ豫期ニ反シタルモノアリシモ本試驗ニ於テ稍漁場ヲ鮮明シタルヲ以テ次年度ニ於テハ相當收益アルモノト信ス

本試驗ヲ實施シタル期間ハ當地地方ニ於テハ最モ漁獲ナキ時機ニシテ多クハ北海道方面ニ出稼シ縣下ニ殘ル者極メテ僅少ニシテ近年すけどう延繩漁業ノ開始セラレテ以來稍生計ヲ得ルノ路開カレタルモ殆ン漁業ノ停止時機ニシテ漁業者ノ最モ苦シム期間ナリトス今此ノ時期ニ於ケル唯一ノ有利事業タルすけどう漁業ノ狀態ヲ見ルニ漁船(本試驗ニ使用シタルモノ)一艘漁夫四人乘組ニシテ一ヶ月平均すけどう漁獲高百五拾圓内外ナレバ此ノ内ヨリ餌代、漁具修繕費、米代其他雜費ヲ合算スレバ金六拾八圓余ノ經常費ヲ要スルヲ以テ差引手取金八拾貳圓ヲ得ル狀態ナリ

ナレバ前記計算ニ依ル七ツ島ニ於ケル鯛漁業ハ一艘一ヶ月約百七拾圓余ノ實收入ヲ得ル成績ヲ示セルヲ以テ約二倍強ノ手取トナリ前者ニ比シ非常ニ有利ナル事業ナルヲ認ムルコトヲ得ベシ

ナレバ今後漁業組織方法ヲ研究改善シ根據地ノ諸設備ヲ完備シ運搬船ノ運用ヲ經濟的ナラシメ益漁業能率ノ増進ニ努メ七ツ島附近未開ノ漁場ヲ開拓シ充分ナル漁利ヲ收ムルニ於テハ該漁業ハ必ズ此ノ漁業停止時期ニ於ケル好漁業ナルベシト信ズ

附
 以上ノ試驗期間中ニ於ケル母船金城丸ノ漁場探險ニ從事シタル概況ヲ表記スレバ左ノ如シ

月 日	符號	漁場	使用器具	使用量	下層水温	下層比重	潮流	餌料	水獲深時	種類	漁獲量	價格
八月二十七日	イ	イ	午前七時	八二	一九、五	二四、四四	東	全	六〇	鯛	五、五八〇	一一、七一八
全二十九日	ロ	ロ	午前七時	七五	二一、五	二五、八一	全	全	三〇	全	一、三三〇〇	一三、四〇〇
九月一日	ハ	ハ	午前六時	八七	二三、五	二五、〇二	全	全	二〇	全	一九、一〇〇	三二、四五〇
全三日	ニ	ニ	午前六時	九五	二一、〇	二五、九五	全	全	四〇	全	三〇、八〇〇	四二、八七〇
全五日	ホ	ホ	午後一時	一〇二	二一、〇	二五、五三	全	全	四〇	全	四一、六〇〇	六二、七〇〇
全十一日	ヘ	ヘ	午前六時	一〇二	一九、五	二六、三〇	全	全	五一	全	二五、五〇〇	三二、三二〇
全十八日	ト	ト	午前七時	一〇二	二一、〇	二三、六一	全	全	四〇	全	三三、八〇〇	一一、三、五七〇
十月二日	チ	チ	午前六時	一一四	二二、〇	二四、八五	全	全	四七	全	三五、六〇〇	六〇、四九〇

累計 漁獲數量 二百五貫二百八十匁
 漁獲金額 參百六拾九圓五拾錢八厘也

第三 しいら旋網委託試験

第三年目

(111)

一、試験ノ趣旨

本試験ハ前二ケ年ノ成績ニ徴スルニ網船ヲ曳航スルニ艘旋網漁法ヲ以テスルニ於テハ風浪少シク高マルキハ曳航困難ニシテ危險尠カラザルヲ以テ自然長途ノ航海ニ堪ヘズ然ルニ近時露ノ廻游漸次沖合ニ離隔シ從ツテ漬木ノ敷設モ海深二百尋以上ニ達シ離岸三十哩ヲ越エントスルノ傾向アリ、サレバ本年度ニ於テハ二艘旋網ヲ改メテ發動機船自身ニヨル一艘片手廻シ漁法トナシ十噸級發動機船ヲ使用シテ其ノ適否ヲ驗シタリ猶之レト同時ニ從來使用ノ漬木ハ海深ノ増加ニ伴ツテ莫大ナル經費ヲ要シ自然漁場範圍ヲ制限セラル、ノ忌アルヲ以テ全々之レガ趣向ヲ改善シテ漁場ノ擴張ヲ謀ルノ目的ヲ以テ漬木ノ改良試験ヲモ合セテ施行セリ

二、試験委託ノ形式

本試験ハ左記囑託書ノ條件ニ基キ江沼郡橋立村字小塩北濱漁業株式會社ニ委囑シタリ

囑 託 書

石川縣江沼郡橋立村字小塩

北濱漁業株式會社々長 久 保 周 三

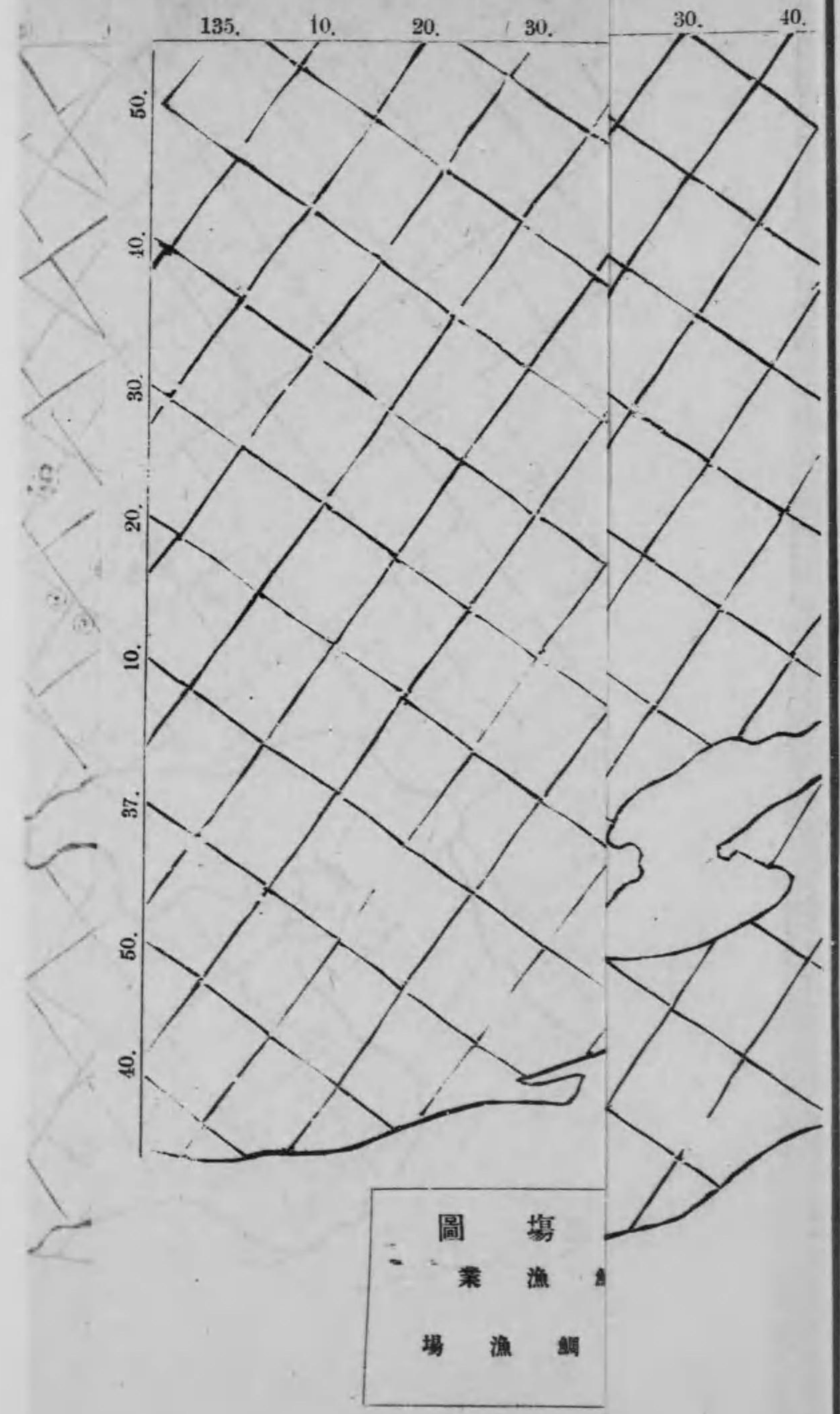
本場ハ露漁業獎勵ノ目的ヲ以テ左記ノ條件ニ依リ別紙目錄ノ物件ヲ其ノ會社ニ使用セシメ露漁業試験ヲ囑託ス

大正七年六月十八日

石川縣水産試験場長事務取扱 面 高 慶 之 助

條 件

第一條 石川縣水産試験場保管ノ別紙目錄物件ヲ大正七年六月十八日ヨリ大正七年九月三十日迄無償ニテ其ノ會社ニ使用セシメ露漁業試験ヲ囑託ス



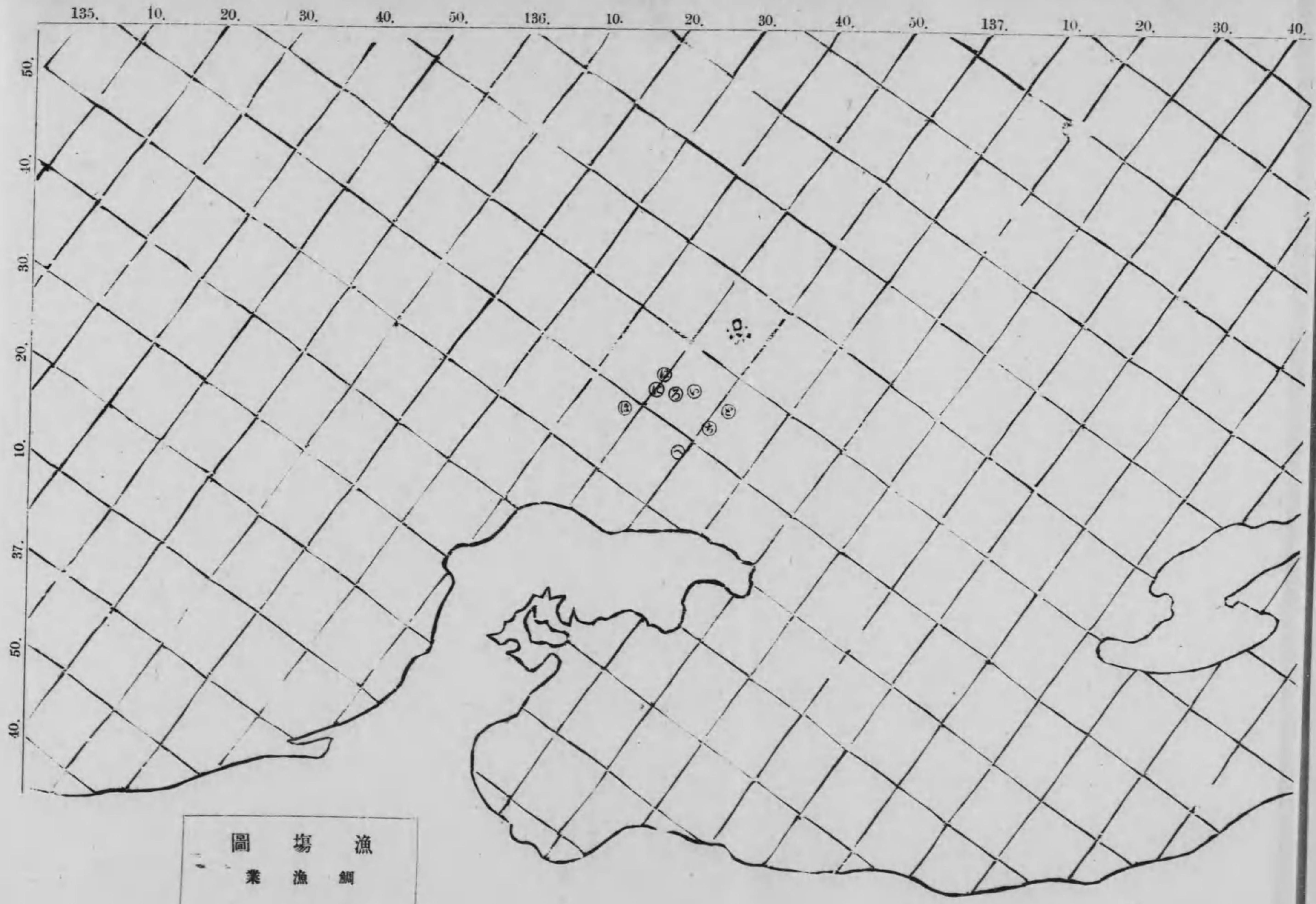
石川縣江沼郡橋立村字小楯

北濱漁業株式會社々長 久保周三

本場ハ鱒漁業獎勵ノ目的ヲ以テ左記ノ條件ニ依リ別紙目錄ノ物件ヲ其ノ會社ニ使用セシメ鱒漁業試驗ヲ囑託ス
大正七年六月十八日

石川縣水產試驗場長事務取扱 面高慶之助

第一條 石川縣水產試驗場保管ノ別紙目錄物件ヲ大正七年六月十八日ヨリ大正七年九月三十日迄無償ニテ其ノ會社ニ使用セシメ鱒漁業試驗ヲ囑託ス



漁場圖
鱒漁業
鱒漁場 ○



第二條 該試驗ノ漁場ハ石川縣江沼郡橋立村沖合トス

第三條 試驗囑託期間中ハ荒天其他ノ爲已ムヲ得ザル場合ヲ除ク外濫リニ休漁スルコトヲ得ズ

第四條 該試驗ノ漁獲物ハ被囑託者ノ所得トス

第五條 使用物件受渡ノ場所ハ石川縣鳳至郡宇出津港トス

第六條 被囑託者ニ於テ使用物件ヲ亡失又ハ破損シタル時ハ同一品質ノモノ或ハ試驗場ニ於テ査定セシ金額ヲ納付スルモノトス

但シ天災其他不可抗力ノ爲亡失シタル時ハ被囑託者ノ賠償責任ヲ免除スルコトアル可シ

第七條 被囑託者ハ試驗ニ付試驗場員ノ指揮監督ヲ受クヘキモノトス

第八條 被囑託者ハ毎月試驗狀況ヲ本場規定ノ漁業日誌ニ記載シ毎月一日、十日、二十日ノ三回ニ纏メテ試驗場へ報告スルモノトス

但シ特別ノ事情ハ隨時報告スルモノトス

第九條 被囑託者ハ試驗完了ノ上試驗ノ經過成績等ニ關シ囑託者ノ指定セル事項ヲ報告スルモノトス

試驗囑託使用物件目録

壹 統

一、罾沖捕網

此新調費金壹百九拾六圓六拾錢也

右ノ囑託書ニ對シ被囑託者ヨリ同一様式ニヨル請書ヲ徴シ試驗ヲ開始シタリ

三、漁 船

試驗ニ使用シタル漁船ハ被囑託者ノ所有ニ係ル左記構造ノ北濱丸ヲ以テシタリ

船体主要寸法
船 型 日本型漁船

長 四十九呎
 巾 十 呎
 深 三呎九寸
 第一數 八、八
 第二數 一八六二、〇
 長ト巾ノ比 四、九
 長ト深ノ比 一一、八九
 巾ト深ノ比 一、六三
 總噸數 一一噸二五
 製造所及造船者 石川郡上金石町ニ於テ同町近藤政次郎

機關主要事項

種類 貳循環單動單筒縱立無點火式石油發動機
 純馬力 十五馬力
 製造者 新瀉鐵工所(東京)
 平均回轉數 四三五回
 燃料消費量 輕油 一馬力一時間一合九勺
 航走速度 回轉四三五回ニシテ試運轉當時八、五海里ヲ示セルモ平均速度力七哩トス

四、乗組員

漁船ノ乗組員ハ船長以下左記八名トス 但被囑託者ノ經費ヲ以テ雇ヒ入レタルモノナリ

船長	一名	機關士	一名
油差	一名	漁夫	五名

五、漁具

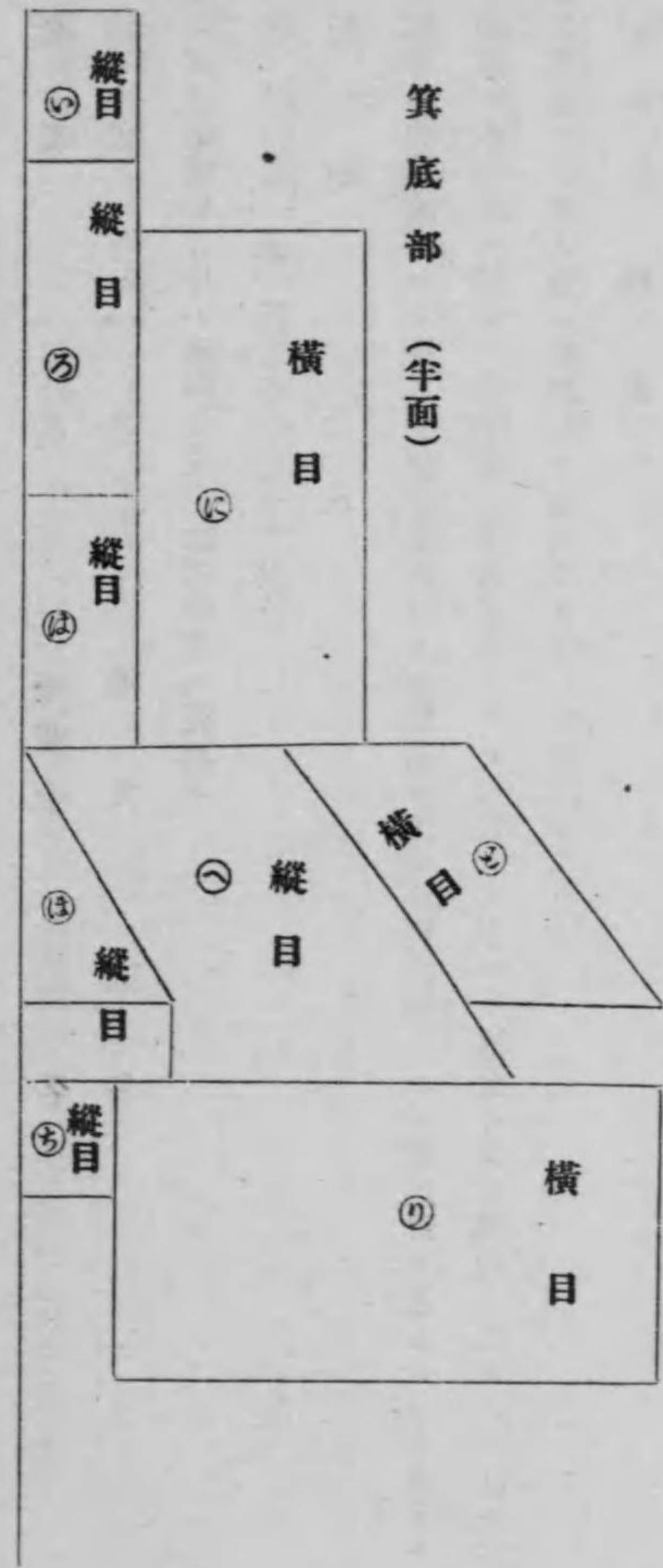
一、旋網
 前年試驗ニ改造使用セシ漁具ハ猶欠點尠カラズ使用ニ際シテ網型整ハザル爲魚群ヲ逸セシコト往々ナリキ、サレバ之等ノ欠點ヲ除クト同時ニ本年度ニ於テハ片手廻ニ漁法ヲ改メタレハ之ニ應スル様全々其ノ構造ヲ改メタリ即チ左ノ如シ(但シ網地ハ全部前年ノ分ヲ使用シ不足ノ分ニ新網地ヲ加入モリ)

箕底部

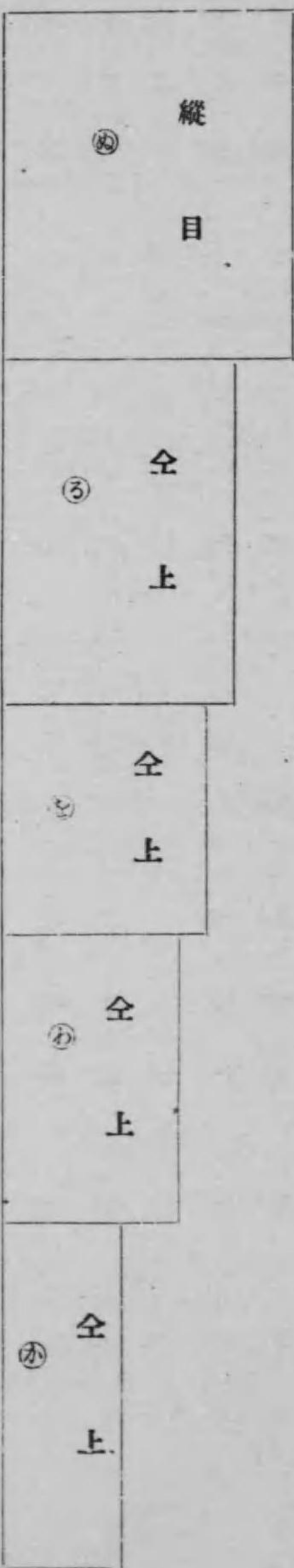
- ① 綿糸三十本子 一寸五分目百掛二尋切一反
- ② 綿糸九十本子 一寸五分目百掛五尋切一反
- ③ 綿糸三十本子 二寸目七十掛三尋半切一反
- ④ 全右 二寸目百掛三尋切四反
- ⑤ 全右 二寸目百掛ニテ一尋編卸シ以後兩側ニテ各自ヲ落シ總長三尋半ニテ一目ニ終ル一反
- ⑥ 全右 二寸目百掛四尋半切二反
- ⑦ 全右 二寸目百掛三尋切二反
- ⑧ 全右 二寸目五十掛一尋半切一反

- ① 全右 二寸目百掛八尋切二反
- 袖部
- ② 綿糸三十本子 三寸目百三十掛十尋切二反
- ③ 全右 四寸目六十五掛十尋切二反
- ④ 全右 四寸目六十掛五尋切二反
- ⑤ 全右 四寸目五十掛十二尋切二反
- ⑥ 全右 四寸目三十掛十尋切二反

右網地ノ縫合左圖ノ如シ



袖部



- 浮子繩 徑三分五厘及徑二分五厘各一本
- 棕栢繩 長二十五尋
- 箕底部 長三十五尋
- 袖部 沈子繩 徑三分及徑二分五厘各一本長三十五尋
- マニラ 浮子 長一尺巾三寸厚一寸五分
- 桐材製 一尋ニ付三枚半ノ割合
- 箕底部 一尋ニ付二枚半袖端部ハ一尋ニ付二枚ノ割合
- 袖部 沈子

鉛製 一個重量五十匁
袖部 一尋ニ付三個半袖端部ハ一尋ニ付二個ノ割合

棕柁繩 徑五分片袖五十尋
手網

網地ハ全部コールター染トナス
染料

二、漬木

漬木ノ構造ハ前年度施行ノ分ト同一ニシテ只深所ニ敷設スルモノト淺所ニ敷設スルモノトハ漬竹ノ數ト碇網ノ長ニ差アルノミト
ス即チ左表ノ如ク十五個ヲ使用セリ

番號	竹數	碇	網	海深	碇	底質
第一號	周二五本尺	上捲繩徑一寸二分	長徑四寸一分	二八〇尋	一俵重量一二〇貫	軟泥
第二號	全	全	全	全	全	全
第三號	全	全	全	二七〇尋	全	全
第四號	全	全	三〇〇尋分	二二〇尋	全	全
第五號	全	全	全	全	全	全
第六號	二九〇本寸	全	全	二一〇尋	全	全
第七號	全	全	二寸一分	一五〇尋	全	全
第八號	全	全	一寸一分	一三〇尋	一二〇貫	全

六、期間

六月二十三日ヨリ十月三日ニ至ル百七十五日間ニ於テ實施シタリ

七、漁場

江沼郡小塩村沖合北北西八哩ノ地點ヲ地濱トシ其レヨリ北西ニ向ツテ二列ニ別圖ノ如ク十五漬ヲ敷設セリ漬ノ敷設ハ漁期ヲ追ヒ漁況ニ應ジ逐次ニ投シタルモノニシテ左ノ日割ヲ以テセリ

番號	全	敷設	全	敷設	全	敷設	全	敷設	全	敷設	全	敷設	全	敷設
第九號	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十號	全	一九八本寸	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十一號	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十二號	全	一九五本寸	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十三號	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十四號	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十五號	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

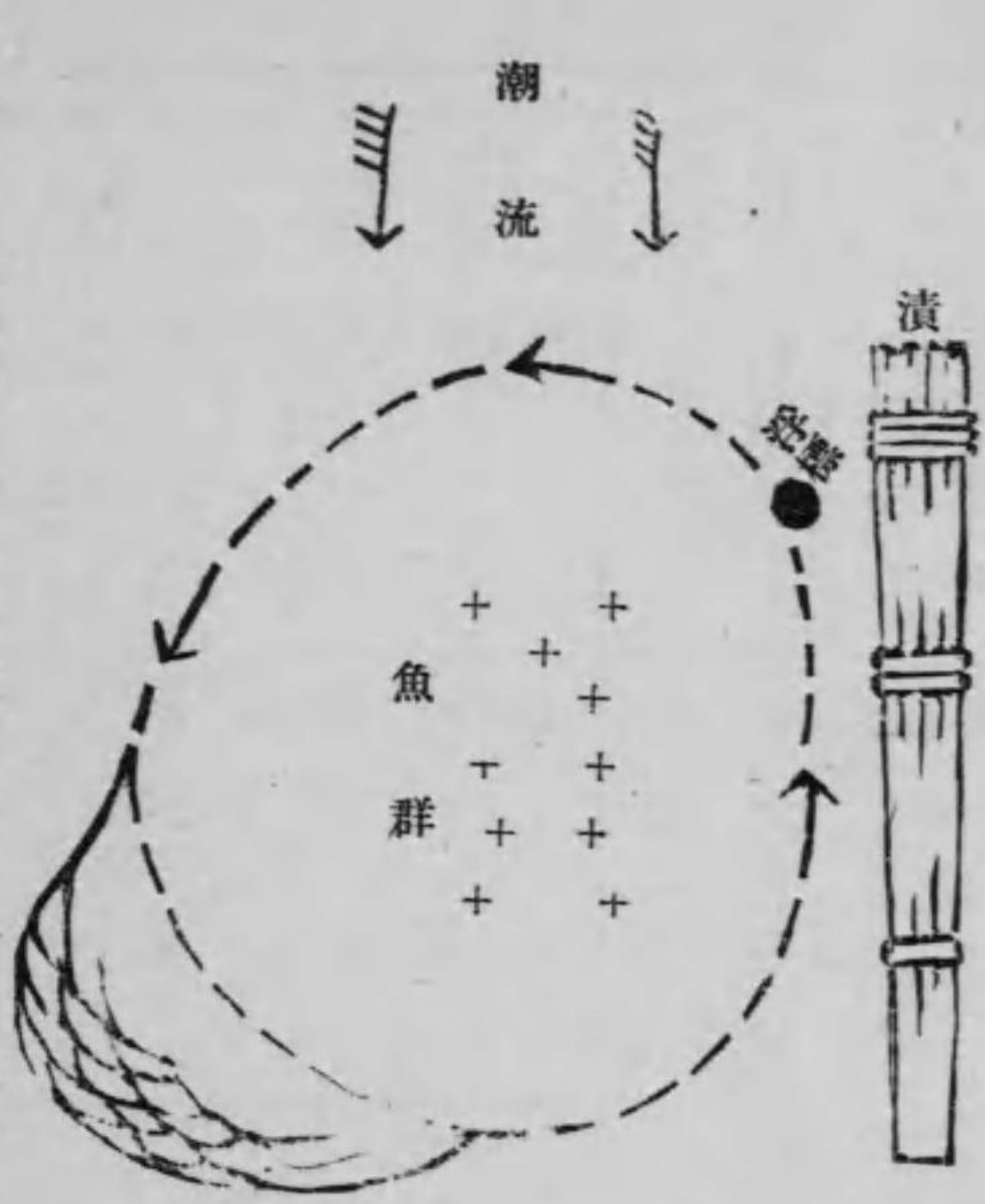
八、餌料

旋網使用ニ際シ魚群ヲ漬ヨリ誘導スル爲使用スル曳餌及撒餌ニハ共ニ塩漬鰯ヲ使用シタリ

敷設月日	漬木番號	敷設個所ノ水深	敷設月日	漬木番號	敷設個所ノ水深
六月二十三日	自第十一番 至第十五番	自八十五尋 至百尋	七月二十八日	自四番 至第六番	自二百十尋 至二百二十尋
七月十五日	自第七番 至第十番	自百十尋 至百五十尋	九月十日	自第一番 至第三番	自二百七十尋 至二百八十尋

九、漁法。

發動機船單獨操縦ノ片手廻漁法ヲ以テセリ即チ本船ヨリハ鰯ニ餌餌ヲ曳キツ、濱ノ周圍ヲ一回乃至二回スルルハ濱ノ鰯ハ之レニ誘導セラレ船尾ニ從フヲ以テ本船ハ鰯ノ餌ニ付キタル模様ヲ見テ漸次濱ヨリ離レ投網ニ都合良キ場所ニ導ク而シテ投網ニ差支ナシト見ルヤ鰯ヲ船尾ヨリ舷側方ニ遠ザクル爲撒餌ヲ投シ鰯ノ曳餌ヲ離ル、ヲ見テ曳餌ヲ船中ニ取込ム而シテ後網ヲ投ズ投網中モ絶エズ魚群ニ注意シ網ノ中央ニアラシムル様撒餌ニ努ム



投網ハ常ニ左舷側中央甲板ヨリシ魚群ノ潮上ヨリ投シ始メ而シテ後袖(右袖)ヲ以テ最後ニ濱側ヲ圍ム即チ左舷ノ如シ然ラザレハ尙濱ニ殘リタル鰯モ投網後撒餌ニ誘導セラレテ出デ來ルコトアレハ濱側ハ最後ニ圍ムニアラザレバ之等ノ魚ヲ網中ニ誘ヒ入ル、コト能ハザルニ至レバナリ

潮流緩漫ニシテ風力強キハ於テハ風向ニ應シテ同一方法ニ投網ス

十、経過並成績
本試験ニハ當場ニ於テ斯業ニ經驗アル漁夫ヲ島根縣簸川郡ヨリ傭聘シ七月三日ヨリ八月十一日迄四十日間北濱丸ニ乗組マシメ實地ニ指導セシメタリ六月二十三日第一回ノ濱入シテヨリ漁具ノ構成、漁船ノ手入等ニ日子ヲ要シ七月十七日ニ至リ初メテ第一回出漁ヲナシタリ而シテ以後十月三日ニ至ル迄連續出漁試験ヲ實施セリ
本年ハ鰯ノ廻游稍例年ヨリ早ク濱入前ヨリ屢々大群ノ襲來セルヲ見

タリ而シテ其ノ初期七月中ハ沿岸ニ接近シ地濱ニ群來シタルモ漁期ノ進ムニ從ヒ漸次沖合ニ去リ八月ニ入リテヨリハ更ニ地濱ニ魚

影ヲ見ザルニ至レリ而シテ九月以降ニ於テハ愈其ノ傾向甚ダシク沖合二百尋以上ニ好況ヲ呈シタリ
初漁以來出漁日數二十九回投網延回数百三十三回ニシテ鰯一千七百五十三貫九百九拾五圓貳拾八錢ヲ得タリ

月日	天候	漁具使用時	漁具使用回数	水温	比重	餌料	潮流	一尾平均重量	種類	數量	價格
七月十七日	晴 南東	自午前八時	三	二三.〇	二四.五	火魚	北急東	一、一〇〇	鰯	七、一〇〇	八九.五〇
七月十九日	曇 北	自午前八時半	五	二二.五	二四.五	全	北急	一、一〇〇	全	二四、八〇〇	一七.八五〇
七月二十日	晴 南西	自午前六時	六	二三.〇	二四.八	鰯	北急東	一、〇〇〇	全	二四、七〇〇	六八.七五〇
七月二十一日	晴 南西	自午前八時	五	二四.〇	二四.八	全	北急	一、〇〇〇	全	二二、八〇〇	六三.六〇〇
七月二十二日	晴 南西	自午前八時半	四	二四.五	二六.二	全	北急東	〇、九〇〇	全	一〇、九〇〇	五五.八五〇
七月二十三日	晴 東	自午前八時	五	二五.〇	二六.三	鹽鰯	全	〇、九〇〇	全	二二、三〇〇	二〇.八五〇
七月二十四日	晴 西	自午前八時	四	二五.〇	二六.二	全	全	〇、九〇〇	全	一七、八〇〇	一八.五〇〇
七月二十六日	晴 東南東	自午前九時	五	二五.〇	二六.四	全	全	〇、七〇〇	全	八、九〇〇	一四.〇〇五
七月二十九日	晴 南西	自午前八時	四	二五.〇	二六.六	全	北急	〇、六〇〇	全	五、二〇〇	一五.五五
七月三十一日	晴 北東	自午前八時	五	二五.〇	二六.六	全	北急東	〇、八〇〇	全	一七、二〇〇	二二.六二〇
七八月	晴 西	自午前八時	五	二四.五	二六.三	全	北急	〇、八〇〇	全	三三、〇〇〇	二四.二四〇

十九日	十四日	十二日	十日	二日	九日	三十一日	二十八日	二十六日	二十五日	二十四日	二十日	十三日	十一日
南晴東三	北晴東三	南晴西三	北晴東二	南晴西二	南晴東二	北晴東二	北晴東三	東晴二	北晴西二	北晴東三	南晴三	南晴二	北晴二
至同前十一時	自午前十一時	自午前八時	自午前八時	自午前八時	自午前六時	自午前六時	自午前六時	自午前六時	自午前六時	自午前六時	自午前七時	自午前六時	自午前八時
三	五	五	七	六	五	六	五	四	二	五	五	四	三
二五、〇	二四、〇	二四、〇	二四、〇	二四、五	二四、〇	二四、〇	二四、〇	二五、〇	二四、〇	二四、五	二五、〇	二五、〇	二五、〇
二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二六、三	二六、三	二六、五	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
北急	北急	北急	北急	全	北急	北急	北急	全	北急	全	全	北急	北急
〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、八〇〇	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、六〇〇	〇、四〇〇	〇、七〇〇	〇、八〇〇	〇、八〇〇	〇、七〇〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一三、八〇〇	四、六〇〇	四、八〇〇	三、五、五〇〇	九〇、一〇〇	八七、一〇〇	三三、一〇〇	八一、一〇〇	二九、一〇〇	二、一〇〇	六、〇〇〇	二、三〇〇	一三、八〇〇	三、八〇〇
一九、四九〇	六、五四〇	五、四〇〇	三、九、八四〇	六、四、九四〇	六、七、三七〇	四〇、二五〇	四二、二四〇	一九、九七〇	二、〇〇〇	三、五、一〇〇	六、〇七〇	六、〇一〇	一、六〇〇

(四三)

二十日	二十七日	二十七日	二十七日
北晴三	南晴西三	南晴西三	南晴西三
至全前八時	自午前八時	自午前八時	自午前八時
三	六	三	五
二、〇	三、〇	三、五	三、〇
二四、九	二四、八	二四、八	二五、五
全	全	全	全
北急	全	北急	北急
〇、六〇〇	〇、四〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇
全	全	全	全
一三、八〇〇	七、五〇〇	一三、二〇〇	八、五〇〇
一九、四九〇	六、五四〇	一五、三〇〇	六、三、九〇

收支計算

收入

一金壹千四百五拾五圓貳拾八錢也
但解一千七百五十三貫九百九代

收入總額

支出

一金壹千參百七拾七圓也

支出總額

內 譯

金四百五拾圓
金貳百六拾七圓
金六百六拾圓
損益
金七拾八圓貳拾八錢也

解濟拾五個(碇綱共)
消耗物品(機關用油其他)
乘組員給料

利益

(四四)

十一、結 論

(四四)

本試験ハ豫期セシ結果ヲ得サリシト雖モ該試験ヲ委囑セシ江沼郡小楯地方ハ未タ露濱漁業ヲ經營セシコトナク今回ノ試験ヲ嚆矢トスルヲ以テ自然漁業上ニ關スル凡テノ技術ニ於テモ尠カラズ欠陥アリシニ比シ當初ノ試ミトシテハ比較的良好ナル成績ト認ムルコトヲ得殊ニ本年ハ鱈ノ廻遊極メテ稀薄ナリシ爲沿岸各地共近年稀有ノ不漁ヲ來セシニ見ルモ本試験ノ不成績ナリシ亦已ムヲ得サルモノナリト云フヲ得ヘシ

本年試験ノ結果改良ヲ要スヘキ點ヲ示セハ次ノ如シ

一、漁具ニ就テ

前袖ノ網丈ヲ現在ノ二倍以上トスルコト

後袖ノ長サヲ猶十尋増スコト

二、漁船ニ就テ

船尾投網法ニ適當ナル設備ヲナスコト

舵面積ヲ大ナラシムルコト

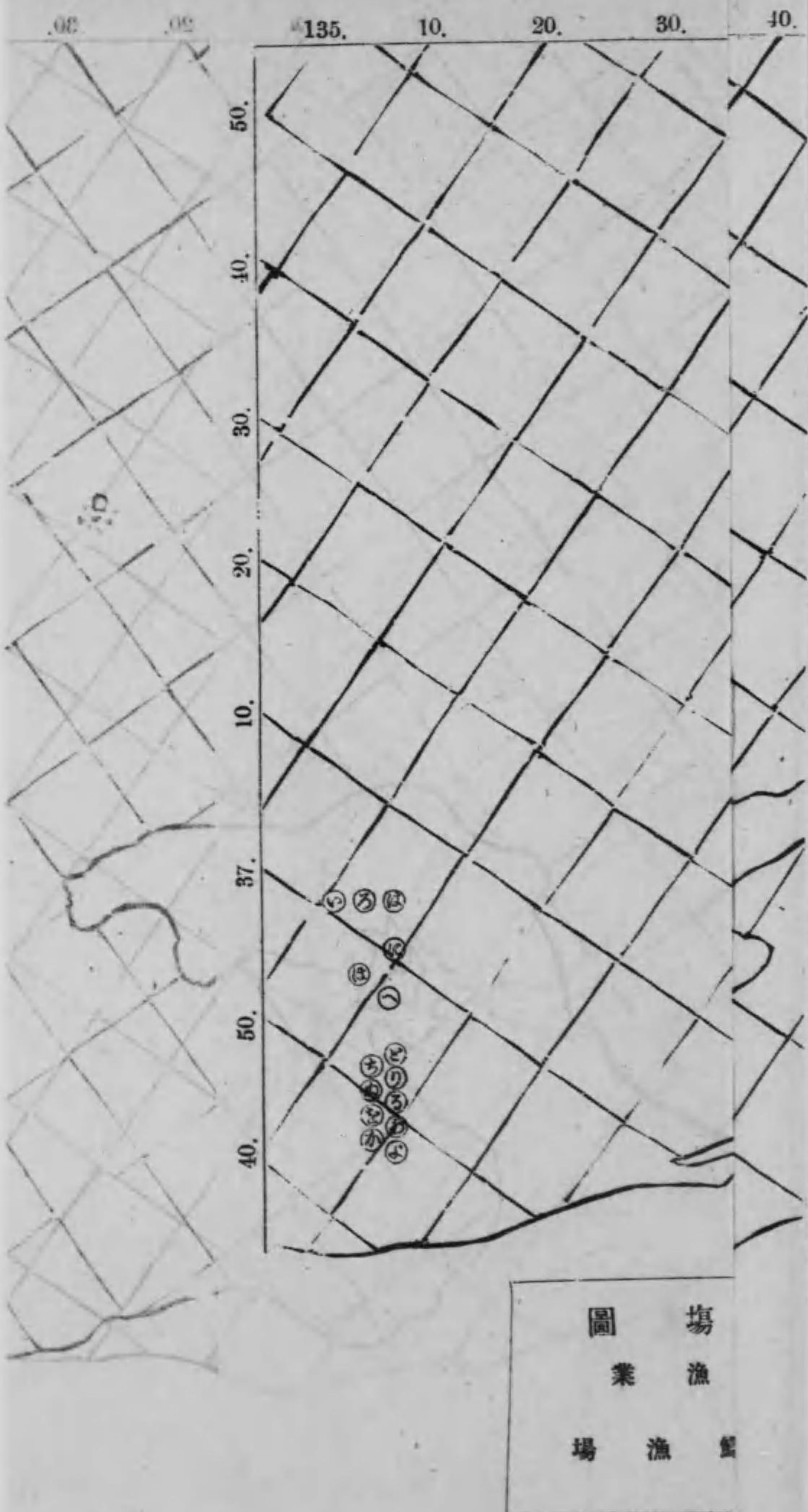
即チ漁具ニ就テハ前袖ノ網丈短カリシ爲投網ノ當初ニ於テ魚群ノ袖下ヨリ潜脱セシモノ尠カラサリシヲ以テ此ノ部ノ網丈ヲ増加スルノ必要アリ

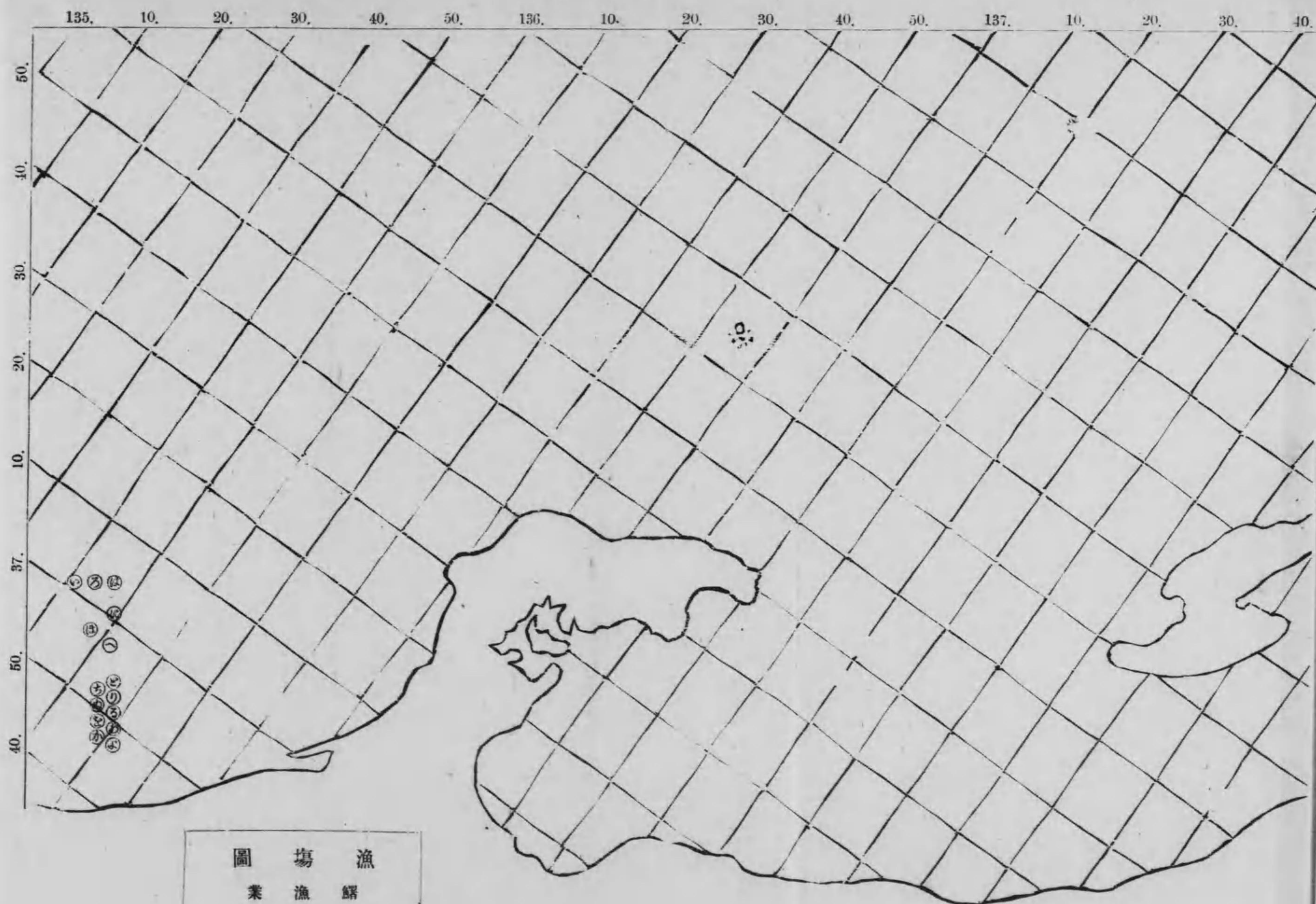
又後袖ハ前袖ヨリ長ク作製シ置キ後袖ヲ以テ投網後ノ網形ヲ整フル必要アリ

漁船ニ就テハ投網位置ヲ船尾ニ移シタル方投網動作ヲ敏活ナラシムルコトヲ得ルヲ以テ船尾ニ適當ナル投網設備ヲナスノ必要ヲ

認ム又舵面ヲ出來得ル限り大ナラシメ投網時ニ於ケル突然急角度ノ回轉ヲ可能ナラシムルノ必要ニ應セシムルヲ要ス

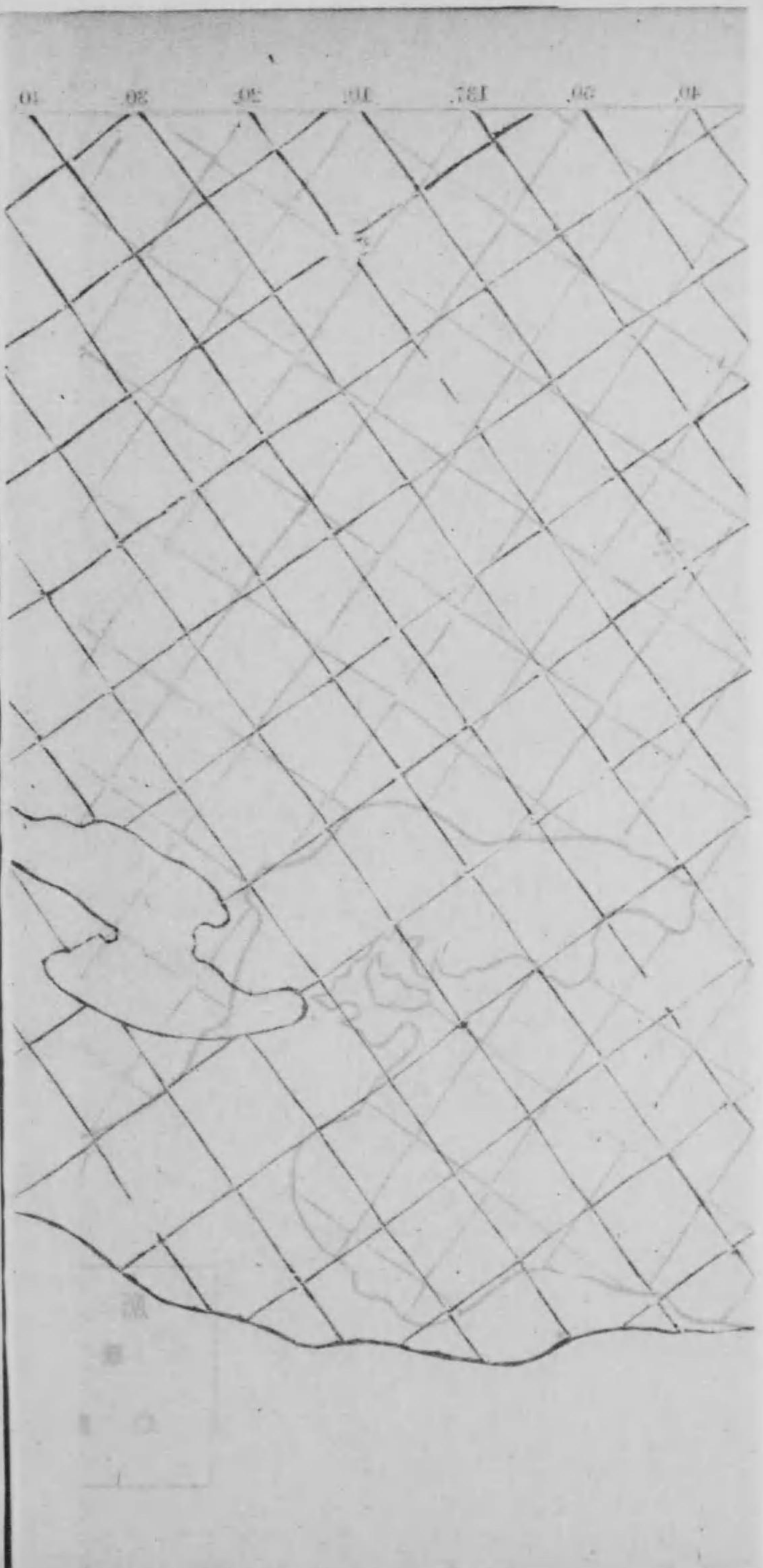
以上ノ點ニ改良ヲ加ヘ以テ之レカ技術ニ熟練スルニ於テハ該漁業ハ必スヤ相當收利アルヘキヲ信スルモノナリ





漁場圖
 鰹漁業
 鰹漁場 ○

又後編へ前編ヨリ長ク作製シ置キ後編ヲ以テ投網後ノ網形ヲ變フル必要アリ
 漁船ニ就テハ投網位置ヲ船尾ニ移シタル方投網動作ヲ敏活ナラシムルコトヲ得ルヲ以テ船尾ニ適當ナル投網設備ヲナスノ必要ヲ
 認ム又舵面ヲ出來得ル限リ大ナラシメ投網時ニ於ケル突然急角度ノ回轉ヲ可能ナラシムルノ必要ニ應セシムルヲ要ス
 以上ノ點ニ改良ヲ加ヘ以テ之レカ技術ニ熟練スルニ於テハ該漁業ハ必スヤ相當收利アルヘキヲ信スルモノナリ



附

漬木改良試験

漬木改良試験トシテ本年實施セシハ鱈ノ漬木ニ群集スルハ果シテ其ノ蔭影ヲ求メテノ爲ナルカ或ハ又漬木ニ寄ル餌料ヲ求ムルノ爲メナルカラ知ラントシテ特ニ蔭影ヲ少カラシメテ餌料ヲ豊富ナラシムルノ方法ヲ以テ鱈ノ群集状態ヲ試験シタリ

一、方法

浮標トシテ四斗樽大ノ樽ヲ以テシ之レニ鰻籠二個ヲ吊リ之レニ「塩漬コマセ」ヲ充滿シ置キ波ノ動搖ニヨリ餌料ヲ撒布スルノ方法ヲ取レリ

二、構造

- 浮樽 高サ一尺八寸
- 徑一尺六寸五分
- 一個
- 鰻籠 口徑一尺五寸、高一尺五寸、底徑二尺六寸ノ鰻籠二個
- 碇網 碇網徑八分、長百七十尋(但水深百二十尋)
- 碇 土俵一俵ノ重量二十貫ノモノ三個

三、経過並成績

以上ノ構造趣向ノ漬ヲ八月十日水深百二十尋ノ地點ニ敷設シ每航海籠中ノ「コマセ」ヲ補充シテ常ニ其ノ附近ニ餌料ノ撒布セラル、様ニシ鱈ノ漬付如何ヲ驗シタルニ未タ充分之レカ成績ヲ極ムルニ至ラス僅ニ十數日ヲ經サルニ先チ俄然暴風ニ遭遇シテ流失ノ不幸ニ會シ遂ニ試験未遂ニ終了シタルヲ遺憾トス

第四 鮪沖合漁業調査

一、趣 旨

本場ニ於テハ夙ニ日本海ニ於ケル鮪漁業ノ有望ナルニ着目シ去ル明治三十八年以來之レカ試験ヲ實施シ或ハ流網ヲ使用シ或ハ延繩曳繩ヲ使用シテ漁場ノ探檢事業ノ適否ヲ驗シタルコトアルモ何レモ當時試驗船ノ構造設備不完全ナリシ爲メ遠ク沖合ニ躊躇漂流シ安シテ試験ニ從フコト能ハサリシニ原因シテ遂ニ不成績ニ終リシト雖モ本縣沖合ニ來游スル鮪ハ其ノ數決シテ尠カラス沿岸建網ニ於テ漁獲セラル、モノノミニテモ年々十萬貫ヲ下ラス

然ルニ近年各地ニ發動機漁船ノ建造ヲ見ルコト多キヲ以テ是等漁船ヲ利用シ該漁業ヲ企圖シタラシムルニハ必スヤ効果アルヘシト信シ再ヒ之レカ試験ヲ復活セシメ今後三ヶ年ヲ繼續シテ日本海ニ於ケル鮪ノ沖合漁業ニ斷案ヲ下サントスルニアリ

而シテ本年度ニ於テ本試驗ハ五月下旬ヨリ實施ノ豫定ナリシモ諸準備ノ都合上非常ニ遲延シ漸ク七月下旬ニ至リ着手ノ運ヒニ至リシ爲メ殆ント漁期ヲ逸シタルノ感アリキ然レドモ例年七八月ニ於テモ猶沖合ニ鮪群ノ湧躍スルヲ見ルヲ例トスルヲ以テ本年度ニ於テハ單ニ此ノ時期ニ於ケル沖合ノ海況調査ニ止メ次年度ニ於ケル該試驗ノ參按ニ資スル目的ヲ以テ之レカ調査ヲ實施セリ

而シテ本年度ニ於テハ農商務省水産講習所ト聯絡ヲ執リ漁具一切ハ水産講習所ヨリ提供シ試驗ニ要スル一切ノ費用ハ本場之レヲ負擔シ左記事項ニ就テ試験ヲ實施セリ

一、流網ノ網目巾ト魚ノ大小トノ關係

二、水温比重ト漁獲ノ關係

三、漁期及漁場ト漁獲高ノ多少

二、漁 具

試驗ニ使用シタル漁具ノ構造左ノ如シ(但シ一把ノ構造トス)

身網野州麻糸徑七厘、八寸目三十掛五十尋切一反

浮子繩棕櫚繩徑三分及二分五厘各三十尋切一本

浮子桐製長八寸幅二寸厚九分一尺二寸間ニ一枚

綠編綿糸百二十本子ヲ以テ半目編キ

口編全右

染料大谷式

右構造ニ依ル漁具二拾六把ヲ使用セリ

三、經過並ニ成績

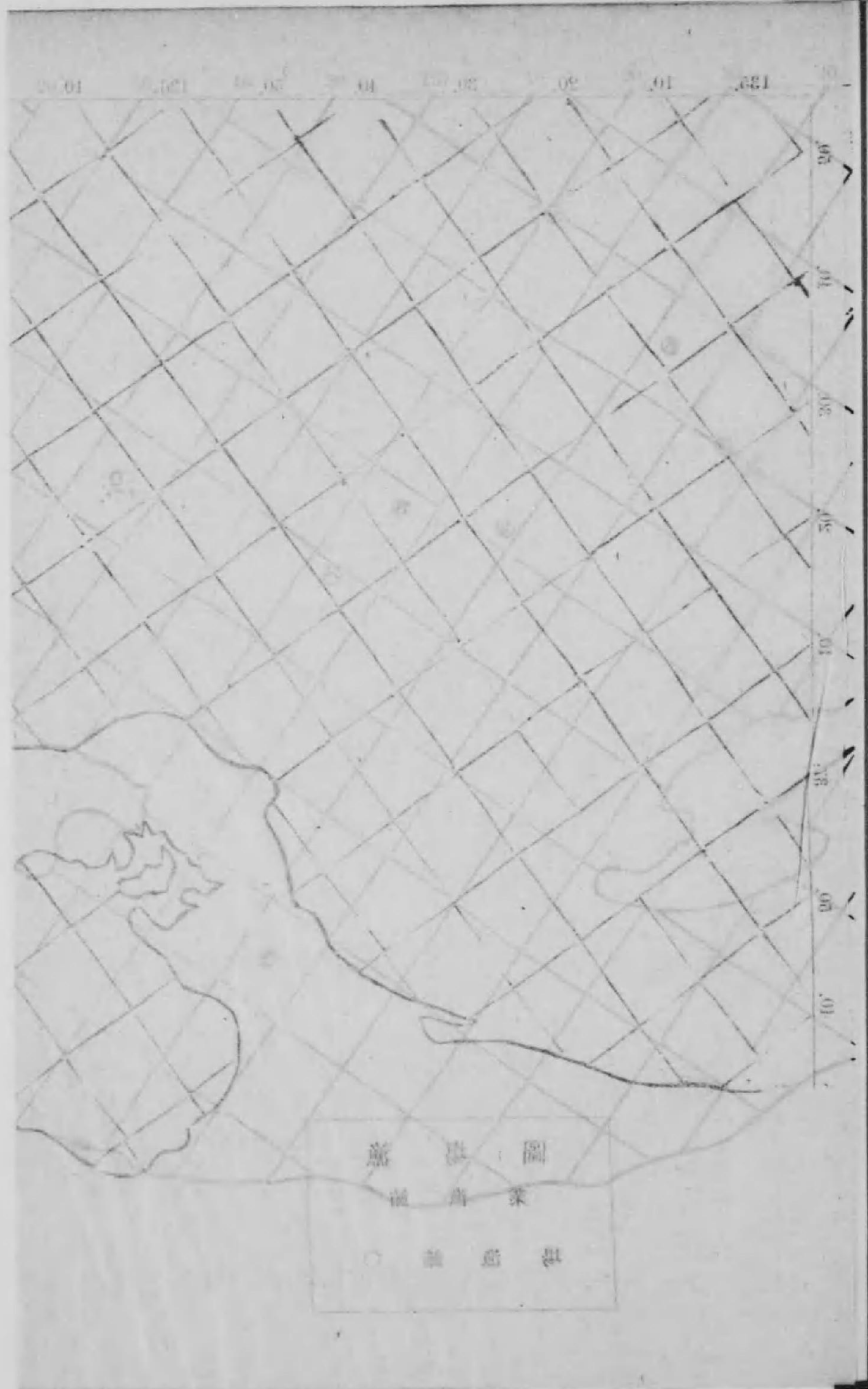
本調査ハ富山縣水産講習所ト提携シ別紙漁場ニ於テ本場ハ主トシテ流網ヲ使用シ富山水産講習所ニ於テハ主トシテ延繩ヲ使用シ同

一漁場ニ於テ實施セリ

本場ニ於テハ七月二十六日初メテ諸準備成リ以後八月十五日ニ至ル間ニ於テ別紙漁場ヲ西方ヨリ東方ニ漂流シツ、沖合ヨリ漸次沿岸ニ向ツテ魚群ヲ探索セリ

然ルニ此ノ期間ニ於テハ沖合ニ於テ多數鯊群ノ湧躍スルヲ見タルモ一回トシテ鮪ノ飛躍スルニ會セス又一尾ヲモ漁獲シ得サリキ而シテ八月中旬以降ニ至リテハ俄然水温上昇シ二七度以上ニ達セシヲ以テ今後魚影ヲ見ルノ見込ナキヲ認メ試験ヲ中止セリ

惟フニ本年ノ海水状態ハ前年ヨリノ影響ヲ受ケ一月ヨリ四月ニ至ル迄ハ海水温度一般ニ低下シ例年ノ平均水温ヨリ約一度弱ノ低温ヲ示シ來リシモ五月ニ入りテヨリ俄然暖流ノ卓越シ來リ水温頓ニ昇騰シテ平均水温ヲ越ユルコト一度半ニ及ヒ爾後次第ニ上昇シ九月ニ入りテハ平均水温ヲ越ユルコト三度ニ達セル状態ナリシヲ以テ鮪ノ來游時期即チ五月以降ニ於ケル水温ニ急激ナル變化ヲ來シ爲メニ鮪廻游ノ時期及範圍ヲ短縮シタルノ感アリ



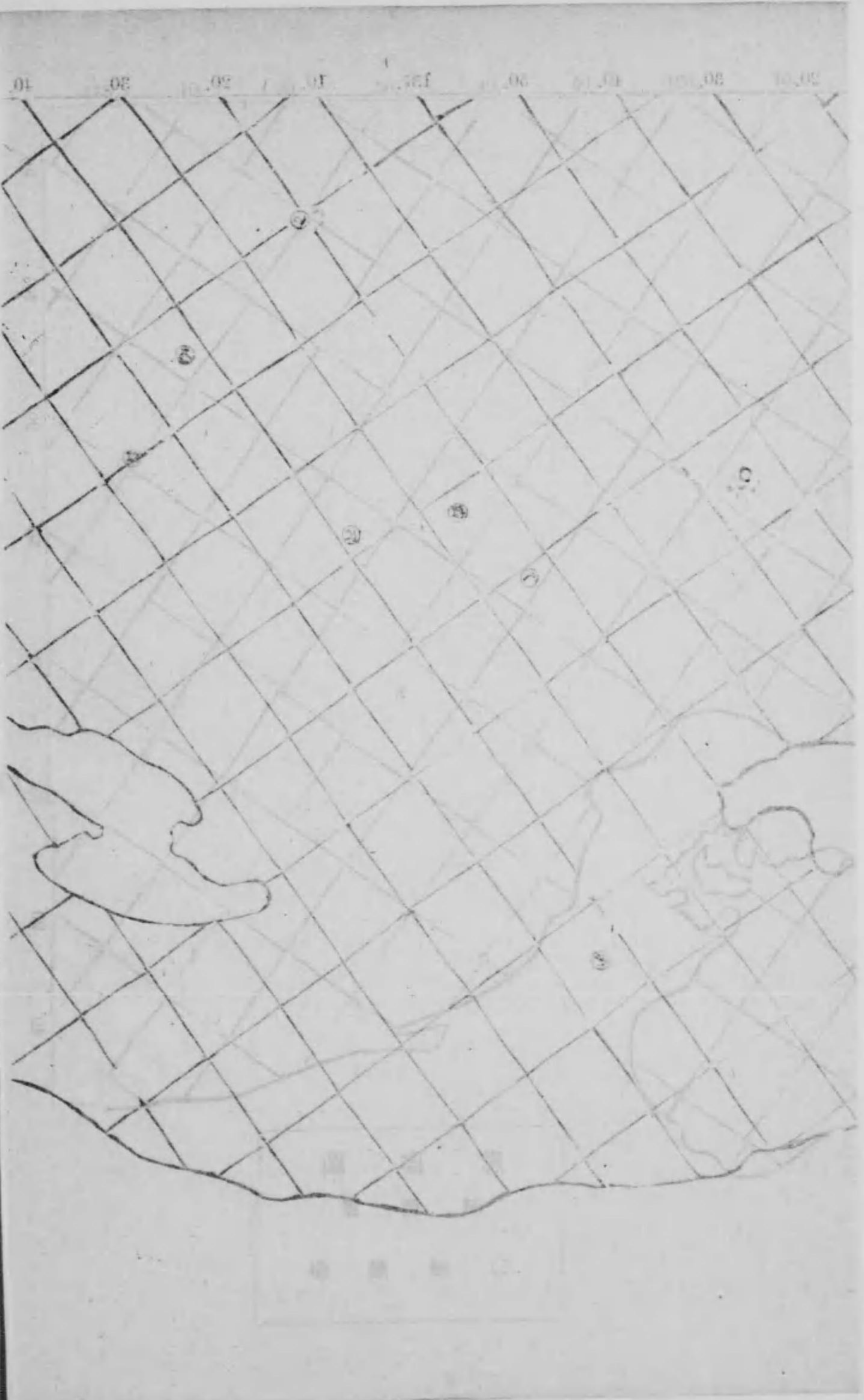
沿岸建網ニ於テ本年ハ稀有ノ不漁ニ終リシモ亦叙上ノ原因ニ依ルナランカ今參考ノ爲メニ奥能登ニ於ケル建網ノ漁獲高ニ就キ三ヶ年ヲ比較スレハ次ノ如シ

年次 漁獲尾數

大正五年 三〇〇〇尾
 大正六年 一五〇〇
 大正七年 一〇五

猶沿岸建網ハ例年七月下旬迄漁獲アルヲ常トスレトモ本年ニ於テハ六月中旬以降ニハ殆ント魚影ヲ見サルニ至リ七月ニ入り早々漁具ヲ撤回シタルノ有様ナリキ

月日	天候	漁場	漁具使用時	漁具數量	表層海水溫度	表層換算比重	潮流方向速	漁獲深時	均一尾量	種類	數量	價格
七月二十六日	晴	イ	自午後七時至午後六時	二五	二一、八	二四、四四	東急					
七月二十七日	雨	ロ	自午後七時至午後五時	二五	二一、八	二四、四八	全					
七月二十八日	雨	ハ	自午後七時至午前六時	二五	二二、〇	二四、四五	全					
七月二十九日	曇	ニ	自午後七時至午前四時	二五	二二、八	二四、四七	全					
七月三十日	曇	ホ	自午後七時至午前二時	二五	二四、〇	二三、六一	南東緩					
八月一日	曇	ヘ	自午後七時至午前七時	二八	二三、五	二四、五九	東急	三時	三、五〇	シユモク	一	15.00
八月三日	曇	ト	自午後七時至午前〇時	二八	二六、五	二四、二一	南西緩					
八月十五日	曇											



傳習生養成及講習講話

本年度ニ於テ實施セルモノ左ノ如シ

種 目	期 間	場 所	人 員
乙種傳習生養成	至自 三五月 月十日	本場	一
發動機關講習	至自 三一月 月十日	本場	一〇
漁業振興ニ關スル講話		羽咋郡西浦村赤崎	七五

漁船設計

本年度設計セシ漁船左ノ如シ

船 種	漁業種類	船 數
ケッチ型十五噸二十馬力帆船	母船式銃鯨漁業	一

大正八年十月十五日印刷

大正八年十月三十日發行

石川縣水產試驗場

石川縣鳳至郡宇出津町字宇出津
ウ字六十三番甲地

印刷者 上田 藤造

石川縣鳳至郡宇出津町字宇出津
ウ字六十三番甲地

印刷所 上田印刷所

〔電話二十五番〕

142
102

終

